

第27回  
デトロイト市派遣学生  
帰国報告書

2025



# Golden Days Abroad in Detroit

～ 姉妹都市デトロイトを訪ねて ～



# 目次

	<b>page</b>
■ はしがき	2
■ デトロイト市派遣学生・受入家庭名簿	3
■ 派遣日程・研修日程	4
■ ホストファミリー紹介	6
■ 滞在中の当番日記	15
■ レポート	26
■ 派遣を終えて	35
■ 英語での感想文 (Reflections written by each student in English)	55
■ 豊田市・デトロイト市姉妹都市交流資料	59

# は し が き

豊田市長 太田 稔彦

豊田市は「クルマのまち」として世界に知られ、日本の製造業の中心地としての役割を果たしてまいりました。同じく、デトロイト市も「モーター・シティ」として名を馳せ、両市は長きにわたり市民同士の友情と信頼を築いてきました。そして今年は、1960年に両市が姉妹都市提携を結んでから、節目の65周年を迎える年となります。長年にわたり育まれてきた両市の友情の歴史を振り返るとともに、未来へとつなぐ新たな一步を踏み出す大切な年でもあります。

デトロイト市との交換学生事業は、1965年に初めてデトロイトから派遣団を受入れて以来、400名を超える両市の学生が参加しています。学生たちは、異文化を学ぶとともに、互いの国やまちへの理解を深め、その経験を通じて両市の友好関係を支える礎を築いてきました。今回の第27回交換学生派遣団も、約2週間にわたる友好親善の務めを果たし、無事に帰国しました。帰国報告会では、デトロイト市民との交流を通して感じた文化の違いや学びについて報告を受けるとともに、今回の経験を今後の人生に生かしていきたいという学生たちの強い決意を伺うことができました。交換学生事業が始まってから60年が経過する中、国際化はますます進展し、豊田市には海外生活で得た経験を仕事や学業に生かす市民や、就労や結婚を機に日本での生活を選択した外国人も増え、国際色豊かな地域社会が広がっています。こうした環境のもと、交換学生事業は、若い世代の国際感覚を育み、両市の友情を次の世代へとつなぐ、重要な取り組みとなっています。

現代は、インターネットや書籍を通じて世界中の情報を容易に得られる時代です。しかし、国際交流の本当の価値は、画面や文字からは得られない「生きた体験」にあります。自らの目で見て、肌で感じる経験こそが、人を大きく成長させる力になると私は信じています。今回の派遣で得た出会いや学びは、参加した学生たちにとって貴重な経験であると同時に、豊田市の国際交流の輪をさらに広げる力となることでしょう。今後も多くの高校生の皆様が積極的にこの事業に参加されることを期待しております。

最後に、この事業の実現にご理解とご協力をいただいたご家族、学校関係者の皆様をはじめ、デトロイト市の事務局、ホストファミリー、関係機関の皆さまに心より感謝申し上げます。豊田市は今後も、若者が挑戦し学び、世界とつながる機会を応援してまいります。派遣団の皆さんが経験したこと、感じたことが、これからの豊田のまちをより豊かにする力となることを願っています。

## 派遣学生・受入家庭名簿

氏名	勤務先・学校(学年)	受入家庭
リーダー 近藤 歌織 Kaori Kondo	 豊田市国際交流協会 ボランティアグループ 所属	The Frazer-Wilson Family
サブリーダー 木下 開斗 Kaito Kinoshita	 豊田市多様性社会共創課 主査	The Potere-Wiltse Family
派遣学生 石堂 優太郎 Yutaro Ishido	 トヨタ工業学園 3年	The Standifer Family
派遣学生 今泉 翔太 Shota Imaizumi	 豊田南高等学校 2年	The Cato Family
派遣学生 宇治野 絢香 Ayaka Ujino	 刈谷北高等学校 2年	The Norman-McMiller Family
派遣学生 柏本 穂美 Honomi Kashimoto	 豊田高等学校 1年	The Glore Family
派遣学生 坂入 翔真 Shoma Sakairi	 トヨタ工業学園 3年	The Palmer Family
派遣学生 鈴木 桃佳 Momoka Suzuki	 南山高等学校 2年	The Ridley Family
派遣学生 水野 惟斗 Yuito Mizuno	 豊田西高等学校 1年	The Palmer Family
派遣学生 吉田 遥香 Haruka Yoshida	 中京大学附属中京高等学校 2年	The Tandy Family

## 派遣日程

日 時		予 定
7月31日(木)	7:35 14:25	中部国際空港 発 デトロイト・メトロポリタン・ウェイン国際空港 着 マリオット・ホテル・ルネサンス・センター 宿泊
8月1日(金)	13:00 14:00 18:00 20:00	オリエンテーション デトロイト市内ツアー ホストファミリーと対面・夕食 解散・ホームステイ開始
8月2日(土)	終日	ホストファミリーと共に過ごす
8月3日(日)	終日	ホストファミリーと共に過ごす
8月4日(月)	8:30 9:15 10:00 17:00	集合 メリア・ハワード デトロイト市副長表敬訪問 フェアウェルパーティ準備 解散
8月5日(火)	8:30 10:00 13:00 18:00 20:00	集合 Pewabic Pottery で陶芸体験 People Mover で市内散策 フレンズ・オブ・トヨタによるウェルカムパーティー 解散
8月6日(水)	8:30 9:30 13:10 17:00	集合 デトロイト美術館見学 デトロイト・タイガースの試合観戦 解散
8月7日(木)	8:30 9:30 11:00 14:30 17:00	集合 チャールズ・ライト・アフリカン・アメリカン博物館見学 ウェイン州立大学見学 College for Creative Studies 見学 解散
8月8日(金)	8:30 9:00 11:00 17:00	集合 岸守一 在デトロイト日本総領事 表敬訪問 フォード・ルージュ工場見学 解散
8月9日(土)	終日	ホストファミリーと共に過ごす
8月10日(日)	終日	ホストファミリーと共に過ごす
8月11日(月)	7:00 13:00 23:00	集合 ナイアガラの滝見学 解散

8月12日(火)	8:30	集合
	10:30	デトロイト歴史博物館見学
	13:00	フェアウェルパーティ準備
	17:30	フェアウェルパーティ
	21:00	解散
8月13日(水)	11:00	デトロイト・メトロポリタン・ウェイン国際空港 集合
	14:55	デトロイト・メトロポリタン・ウェイン国際空港 発
8月14日(木)	20:20	中部国際空港 着・解散

## 研修等の日程

令和7年

- 4月 1日(火) 「広報とよた」、市ホームページに派遣学生の募集掲載
- 5月25日(土) 派遣学生 選考試験
- 5月27日(火) 派遣学生 決定
- 6月14日(土) 派遣ガイダンス(事業説明、旅行社説明)
- 6月28日(土) 第1回事前研修会(英語研修、前回派遣生座談会)
- 7月12日(土) 第2回事前研修会(英語研修、さよならパーティ打合せ)
- 7月23日(土) 第3回事前研修会(旅行社説明、さよならパーティ準備)
- 7月31日(木) デトロイト市へ出発(同日に米国到着)
- 8月14日(木) 帰国(前日に米国出発)
- 8月22日(金) 市長・市議会議長への帰国報告
- 10月5日(日) 「国際の日 ワールドツアー in TIA」にて派遣報告

## ホストファミリー紹介

## The Frazier-Wilson Family

リーダー 近藤 歌織

私のホストファミリーの Elaine さんと、Terry さんを紹介します。エレインさんとテリーさんは、とても明るく楽しいご夫婦です。エレインさんは市役所と親族の建設会社で会計士として働く、頭の切れる頼りがいのある女性で、私にとってはまるでお姉さんのような存在でした。平日はフォードの車で通勤しますが、週末にはクラシックカーのコルベットに乗ります。その加速はまるでラリーカーのようで、日本の速度なら時速 100 キロを超えているのに、それほど速いとは感じないほど安定した走りでした。テリーさんはカナダ・ウィンザー出身で、8 人の兄弟と 3 人の姉妹を持つ大家族の一員です。フォードの自動車販売店で働き、フォードのピックアップトラックやフォルクスワーゲンも乗りこなしています。週末にはウィンザーに住む弟夫婦を訪ね、気軽に国境を越えてカナダへ行けることに驚きました。エレインさんにも 3 人の兄弟がいて、家族同士の交流はとても盛んです。ある日には、それぞれの兄弟夫妻を夕食に招き、私は日本食を 2 品作って振る舞いました。リビングに並ぶ数多くの家族写真からも、家族を大切にする気持ちが伝わってきました。さらにテリーさんはセカンドハウスを所有し、Airbnb で貸し出しています。お二人はテーブルゲーム好きで、特に「フェーズ 10」は何百回も遊び、記録まで残しているそうです。毎日一緒に楽しむ時間は、家族の温かさや絆を感じさせてくれるものでした。



## The Potere-Wiltse Family

サブリーダー 木下 開斗

私は、Potere-Wiltse ファミリーにお世話になりました。ホストファザーのステイブンさん、ホストマザーのマーサさん、そして娘のルイズとマキシム。さらに、2 匹のコーギーのボリスとオルガもおり、とても明るく温かなご家庭です。今回が Potere-Wiltse ファミリーにとって初めてのホスト経験だったそうで、その大切な最初のゲストとして迎えていただけたことを、本当に幸せに思います。



ステイブンさんはデトロイト市役所の情報技術部門で IT の専門職として働かれています。リモートワークの合間に子どもたちの送迎をされるなど、家族思いで穏やかな優しさにあふれた方です。マーサさんも同じくデトロイト市役所に勤務されており、市長室の雇用・経済チームとして街の経済発展に尽力されています。以前

は日本で英語を教えた経験や、カナダ、ブルガリア、フランス、ドイツなど様々な国で暮らした経験をお持ちで、国際的な視野を持ちながら、いつも温かく日本文化への関心を示してくださる方です。

最初の週末には、カナダ最南端の Point Pelee 国立公園へ家族旅行に連れて行っていただきました。カナダの大自然で散策やピクニックを楽しみ、とても穏やかな時間を感じられる週末でした。自宅では、ピザを窯で焼いてお友達とパーティをしたり、地下のシアタールームで、家族全員で映画を鑑賞したりして過ごしました。子どもたちが寝た後にはホラー映画をマーサさん、スティーブンさんと一緒に観たことも楽しい思い出です。また、地元のサッカーチーム Detroit City FC の試合観戦や、子供たちの友達の誕生日パーティに参加させてもらったことも、アメリカの生活を肌で感じる貴重な経験でした。

また、毎朝、マーサさんは早起きして朝食を用意してくださり、その時間を通して、アメリカの日常生活を身近に感じる事ができました。ある朝には、朝食の時間に私の家族とビデオ通話ができるよう配慮してくださり、ホストファミリーと自分の家族を紹介し合うことができたことは、心に残る出来事のひとつです。

Potere-Wiltse ファミリーと過ごした二週間は、私の人生においてかけがえのない宝物です。この経験を通して異なる文化に触れる喜びを改めて感じ、彼らと出会ったことに心から感謝しています。

## The Standifer Family

石堂 優太郎

私のホストファミリーは Standifer family です。母の Lolita と息子の Samir の二人家族です。ホストファミリーと顔合わせをするウェルカムパーティーで緊張していた自分に日本のアニメキャラクターの評価を聞き続けてきた Samir と、その様子を見て笑い続けている Lolita を見て愉快的方たちの家にホームステイが出来る、そして今回のホームステイは最高なものになると確信したことを覚えています。

母の Lolita はとても陽気な方で一緒に近くのフェスに参加したときも誰よりも笑って誰よりも楽しそうにする人で一緒にいるだけで毎日が面白かったです。小学校の先生として働いて同僚の先生や生徒に会う機会なども作ってくれて良い経験になりました。



息子の Samir は自分と同年でアメリカンフットボールが大好きです。日本の文化に興味があり、日本のアニメやお菓子の話で盛り上がりました。学校で日本語を勉強していて「ありがとう」「いただきます」などの言葉を嬉しそうに話してくれました。土日や平日家に帰った後などには常に一緒にいてドラマを見たり、遊園地

に行ったり、近くの公園でスポーツをしたりしました。まるで兄弟が増えたように感じるくらい一緒に過ごせたことが、とても楽しかったです。

最初は不安が多い状態から始まったホームステイでしたが、最高のホストファミリーと過ごせたことで、ホームステイはとても充実したものになり、一生の思い出になりました。

## The Cato Family

今泉 翔太

僕は2週間 Cato Family にお世話になりました。家族は、お父さんの Steven、お母さんの Simone、兄弟は3人いて上から、Makaio(17)、Josiah(15)、Emmanuel(12)、そして長女の Nadia(9)の6人家族でした。

○Steven (ホストファザー)

お父さんは毎朝集合場所まで送ってくれました。一家で一番の早起きで、自分よりも毎日起きるのが早く、すごく活動的で毎朝ランニングをしていました。

○Simone (ホストマザー)

お母さんはとても面白くて優しい人でした。毎朝は「good morning Shota !」と元気に挨拶してくれました。頭を使うことが好きなので一緒にボードゲームをしたり、ナンプレをしました。

○Makaio(17)

長男は少しシャイなところがありましたが“長男”って感じの人でした。彼はサッカーチームに入っていて一緒にサッカーをしました。

○Josiah(15)

次男は長男とは反対で人と話すのが好きな人でした。なので、次男とはすぐ打ち解けて仲良くなりました。彼もサッカーをしていたので一緒にサッカーをしました。

○Emmanuel(12)

三男は Josiah に似ていて、活発でいたずらっ子でした。彼もサッカーをしていたので兄弟全員で週末にサッカーをしました。

○Nadia(9)

長女はシャイな感じの子でしたが話すのがとても好きなので一緒に話したりして仲良くなりました。上の兄弟の影響か、彼女もサッカーをしていたので一緒にプレーしました。



## The Norman-McMiller Family

宇治野 絢香

私が2週間お世話になった Norman Family は、母 Karen、姉 Brianna (Bri)、妹 Lauren の3人で、とにかく明るく仲の良い家族です。お母さんの Karen は滞在中は毎日送り迎えをしてくれ、その際にデトロイトならではの街並みについて教えてくれたり、体験させてくれたりしました。そしてお母さんが笑うとついつられてしまうような笑顔がとっても素敵な人です。姉の Brianna は滞在中、仕事の都合で会えない日も多かったけれど、モールやゲームセンターに連れて行ってくれ、一緒に全力で遊んでくれました。いつも明るく、陽気な性格で、でも時々天然で一緒にいるだけで楽しく自然と笑顔になる人です。妹の Lauren は滞在中1番一緒にいました。一つ下とは思えないくらいしっかりしていて、家のことを教えてくれたり、困ったときには助けてくれたりと優しく、落ち着いた彼女の存在にとっても助けられました。日本のことが好きで日本語がとても上手な彼女が次は豊田に遊びに来てくれるのを楽しみにしています。一緒に料理したり、話したりと、たった2週間でしたが、本当の家族のように接し、ふざけ合える温かい家族と過ごすことができ、とても幸せでした。日本でもアメリカでもどこでもいいので必ずまた会いたいです。



## The Glore Family

柏本 穂美

私は Glore Family にお世話になりました。強そうなお父さんに明るいお母さん、しっかり者の長女、正反対だけれど優しく面白い双子の女の子、そして食いしん坊の犬一匹の家族です。

### ○ロリママ

ホストマザーの第一印象は明るく元気そうな人だなと思いました。土日にいろんなところに連れて行ってくれたり、デトロイトのいろんな文化について教えてくれました。

### ○グレッグパパ

ホストファザーの第一印象は少し怖くて厳しそうなイメージでし。でもコストコに連れて行ってくれるだけでなく、オリジナルのハンドサインを教えてくれたり、お家では踊っていたり、陽気なパパさんでした。特にカリカリのベーコンが美味しかったです。

### ○ゼン

ゼンは18歳の長女さんです。主に面倒を見てくれました。第一印象は笑顔がとってもステキで翻訳機を使いながらたくさんのことを伝えてくれて、英語に自信はな



かったけれど、それでもたくさん話すことができました。

#### ○ジャーニー

双子の一人で、最初は明るく優しく接してくれ、それ以降ずっとたくさんおしゃべりしました。編み物が得意でいつも何か編んでいて、ノールックで編めるほど、とても上手でした。その特技を生かして鞆と帽子をプレゼントしてくれました。

#### ○ドリーム

初めて会ったときにジャーニーと一緒にシールをくれました。静かそうな印象でしたが、家に帰ってからは元気にたくさん面白い話をしてくれました。ゲームが好きで一緒にカービーをしたり、面白かったです。

一緒にたくさんお出かけしているんなところに連れて行ってきて、たくさんのかを教えてくださいました。たくさんのか時間を共に過ごし、第二の家族の一員になったように感じました。

## The Palmer Family

坂入 翔真

私のホストファミリーの Palmer family を紹介します。私のホストファミリーは五人家族で、男の子の三人兄弟でした。

○スピードレーサー Mrs. Lucinda (ホストマザー)

ホストマザーはめちゃくちゃ運転が速いです。一番出したときは時速 100 マイルで、プロ野球選手のストレートと変わらないスピードでした。初めて乗ったときは死を覚悟した記憶があります。そんなホストマザーですが、とても気さくで毎朝朝食を作ってくれ、送迎も笑顔でやってくれました。自分を本当の家族のように扱ってくれ、とても感謝しています。

初めて乗ったときは死を覚悟した記憶があります。そんなホストマザーですが、とても気さくで毎朝朝食を作ってくれ、送迎も笑顔でやってくれました。自分を本当の家族のように扱ってくれ、とても感謝しています。

○笑顔が素敵な Mr. Edward (ホストファザー)

ホストファザーは常に笑顔で接してくれ、いろいろな遊びを教えてください、アメリカの文化についてたくさんのかを教えてくださいました。なによりダンディでかっこよく、勉強もできるので非の打ちどころがないお父さんでした。

○14 歳にはみえない Dean (ホストブラザー14 歳)。

Dean はほんとに大人びていてとても 14 歳には見えませんでした。彼は、ほんとに紳士でやさしさにあふれた子です。そして、笑顔がとても素敵で見た目はとても大人びていますが、内面はとても子供らしく、愛くるしいです。

○チェス最強の Eli(ホストブラザー12 歳)

Eli はとてもチェスが強かったです。おそらくアメリカ一位になったことがあるほどの実力者でした。そんな彼は、とても賢く、私が会話で困ったときに簡単に言い換え。しかし、家の中でも一番のいたずらっ子でとてもかわいらしい子です。



○シャイな Titus(ホストブラザー8歳)

彼は、とてもシャイであまり心を開いてくれませんでした。ですが、一緒に遊んだときの楽しそうな表情はとても可愛かったです。チェスでは一度も勝てませんでした。

こんな私を明るく受け入れてくれたホストファミリーのことが大好きです！私のホストファミリーが Palmer family で良かったです。

## The Ridley Family

鈴木 桃佳

私のホストファミリーは、本当に温かく迎えてくれて、滞在中ずっと安心して過ごすことができました。ホストマザーは送り迎えをしてくれたり、一緒にショッピングに連れて行ってくれたりと、いつも私のことを最優先に考えて行動してくれました。その優しさのおかげで、初めての環境でも不安なく生活することができました。

ホストファザーはとても優しく、家族全体を穏やかに包んでいる存在でした。特に遊園地に連れて行ってくれた日のことは忘れられません。アメリカらしい大きな遊園地で思い切り楽しむことができ、貴重な思い出になりました。

ホストシスターのザラは、いつも私のことを気にかけてくれる頼もしい存在でした。部屋に「大丈夫？」と声をかけに来てくれることが多く、その心遣いにとても安心しました。家族の一員として受け入れられていると強く感じた瞬間でした。

一緒に住んではいませんでしたが、もう一人のホストシスターであるジーナも、いつも笑顔で「楽しんでる？」と声をかけてくれました。彼女の明るい性格に触れるたび、自然と前向きな気持ちになりました。

また、日本に住んでいるホストブラザーとも、ほぼ毎日電話をしました。日本語が上手で、電話を通していろいろなことを教えてくれ、とても心強かったです。遠くにいっても家族として繋がっていると感じられました。

このように、ホストファミリー全員が温かく支えてくれたおかげで、私は安心してアメリカでの生活を楽しむことができました。彼らと過ごした時間は、私にとってかけがえのない宝物になりました。



## The Palmer Family

水野 惟斗

僕は2週間、坂入さんと一緒に Palmer Family にお世話になりました。5人家族で、みんな陽気だったため、一緒に過ごしていてとても楽しく、充実した日々を送ることができました。

### ○Lucinda(ホストマザー)

スイーツが大好きで、ほとんど毎日デザートを食べに行き、甘いものが大好きな僕と意気投合しました。また、マグネットを集めていて、日本からのお土産に寿司のマグネットを渡したら、とても喜んでくれました。運転は少し速いですが、毎日送迎をしてくれてとても助かりました。

### ○Edward(ホストファザー)

ホームステイ中の計画を細かく立てたり、デトロイトの街などについてたくさん話したりしてくれました。カジノで働いていて、連れて行ってくれる予定でしたが、時間がなくて行けず残念でした。土日に夜勤から帰ってきてもお昼寝の時間を短めにして、僕たちのために時間を割いてくれました。

### ○Dean(長男, Age 14)

とてもフレンドリーで優しく、僕たちに積極的に話しかけてくれ、嬉しかったです。日本のアニメに興味があり、一緒に見ました。箸の使い方も上手で、パーティでも普通に使っていて驚きました。箸で豆をつまむゲームで勝負したら、僕が負けました。

### ○Eli(次男, Age 12)

難しい英語を簡単に言い換えてくれて、コミュニケーションの面でとても助かりました。アメリカンジョークが好きで、よく言っていたので聞くたびにみんなで笑いあいました。また、バスケットボールが上手でとても格好良かったです。

### ○Titus(三男, Age 8)

恥ずかしがり屋で、なかなか会話はできませんでしたが、一緒にかくれんぼやゲームをして楽しみました。僕たちや兄にいたずらを仕掛け、兄に仕返しされる様子がとても可愛かったです。



## The Tandy Family

吉田 遥香

私がお世話になったホストファミリーは、Tandy family です！  
2023年にもデトロイト派遣生のホストファミリーになっています。また、ホストシスターのローレンはデトロイトからの派遣生として豊田に来ていました。そのため、日本のことをよく知っており、私のことも理解しようとしてくれる家族でした！

### ○お父さん

いつでもどこでもアメリカンジョークで笑わせてくれました。そしてとても元気

で優しかったです。

ウェルカムパーティーをしてくれた時には会場に入った瞬間大きな声で「はるか!!」と叫んでくれて、恥ずかしかったけど、とても嬉しかったです!

○お母さん

アメリカンジョークを沢山言うお父さんを横目にやれやれという空気感がとても面白かったです!またカードゲームが大好きで棚がカードゲームで埋まってました。初日から夜の12時ごろまで、一緒にいろいろなゲームをして楽しみました。初っ端から時差ボケで辛かったけど、楽しすぎて忘れるくらい夢中でカードゲームをしました!

○シスター(ローレン)

一個年上の女の子でとても優しかったです。お母さんとローレンと3人で劇を見に行った時に全然英語が分からない私のために劇の台本をネットで探してくれてものすごい優しさに触れました。また沢山ローレンの友達を紹介してくれて一緒にTiktokを撮ったり写真を撮ったりとても色々なことを一緒に出来て嬉しかったです!

○わんちゃん

人懐っこくて初めて会った日から沢山くっつきに来てくれました。撫でるのをやめたら拗ねちゃったり、いっぱい舐めてきたりして、とても可愛かったです!

私を最大級に歓迎してくれた最高の家族に出会えてとても幸せでした!



# 当番日記

## 1日目：7月31日（木）

待ちに待った日がついにやってきました。朝 6 時にセントレアに集合という早い時間にもかかわらず、全員が遅れることなく集まりました。仲間の顔を見た瞬間、「いよいよ始まるのだ」というドキドキが高まっていました。派遣団で集合写真を撮影したあと、東京まで飛行機で移動しました。

羽田発デトロイト行きの飛行機が離陸した瞬間は、私の人生で最もわくわくした瞬間の一つだったかもしれません。機内では、これから始まる二週間の期待を膨らませ仲間と話していると、13 時間のフライトもあっという間に過ぎ、デトロイトに到着しました。

午後 3 時頃に到着すると、ローズさんが空港まで迎えに来てくださり、ホテルまで案内してくれました。荷物を預けた後は、近くのハンバーガー店に連れて行っていただき、到着早々、本場アメリカのハンバーガーを味わうことができました。量も多く味も濃い、まさに想像通りのアメリカの食事に触れたことで、デトロイトでの生活が始まったという実感が湧いてきました。

その後、これまで宿泊したことのないほど立派なホテルで、明日からの生活への期待を胸に眠りにつきました。(石堂)



## 2日目：8月1日（金）

朝起きると、目の前には美しいデトロイト中心街の景色と、カナダとの境界線となっている川が広がっていました。

この日はまず、デトロイトの街を巡り、TCE センターの前にある「デトロイトの精神」と呼ばれる像の前で写真を撮りました。その後、ベル島にあるアンナ・スクリップス・ウィットクーム温室を訪れ、日本との関わりについて解説を受けながら周囲を見学しました。温室の前にある庭園はととてもきれいで、そこではドレス姿で写真を撮っている女性もいました。

昼食にはメキシコ料理をいただきました。そして夕方には、いよいよホストファミリーと初めて対面し、一緒に食事をしました。初対面でとても緊張しましたが、英語を話すうちに次第に打ち解け、家族のみなさんに温かく歓迎していただきま



した。ホストブラザーとたくさんのお話をしたり、趣味を聞いたりとお話が弾みました。また、自分のホストファミリーだけでなく、他のホストファミリーやホストブラザーとも交流することができ、すごく楽しい思い出になりました。

その後、ホストファミリーの家に行ったのですが、ちょうど自分が到着する直前に給湯器が壊れてしまい、冷水しか浴びられないと聞いて驚きました。結局、日本に帰るまでずっと冷水のシャワーでしたが、今となっては忘れられない経験の一つです。(今泉)

### 3日目：8月2日(土)

ホストファミリーと会ったばかりで、時差にも慣れず、うまくやっていけるかまだ不安が残る中、最初の週末を迎えました。この日は朝から、Noviで行われたアニメコンベンションに妹のLaurenと行きました。会場に入ると、たくさんのお店やコスプレをしている人たちであふれていました。そこで目に入ってきたのはたくさんのお店の日本のアニメでした。『鬼滅の刃』や『SPY×FAMILY』のコスプレが多く、日本のアニメはこんなにも有名なのだ改めて実感しました。アニメにはあまり詳しくない私ですが、本格的なイラストのお店や、アニメとは少し離れたアクセサリーのお店もあり、とても楽しむことができました。



次に姉のBriと合流し、「Dave & Buster's」というゲームセンターに行きました。いろいろとトラブルがあり、15時と遅めの時間によろしく昼食をとりました。そこでこの旅初のハンバーガーを食べました。やはりとても大きく、ついてくるポテトも山盛りで、料理が運ばれてきた瞬間の迫力に驚きました。なんとか食べきった後は、ゲームセンターで思い切り遊びました。

初めて見るゲームがたくさんある中、マリオカートを見つけて懐かしさと親近感を覚えました。一番楽しかったのはダンスのゲームです。初めて挑戦した私は全くリズムについていけずボロボロでしたが、Laurenはとても上手で「パーフェクト」を取っていました。二人で息があがりながらも全力で楽しみました！さらに Brianna とエアホッケーもしました。お互いに譲らない接戦で、結局同点に終わり、思いがけない熱戦は



とても楽しく、また息が上がりました。

最後に 3 人で一緒にフォトブースで写真を撮りました。思い切り楽しんだ思い出を写真として形に残せて、とても嬉しかったです！初めての週末は不安な気持ちで始まりましたが、初日から思いっきり遊んでホストシスターたちとも仲良くなれたことで、これからのホームステイ生活が一層楽しみになれた日でした！（宇治野）

#### **4日目：8月3日（日）**

この日は日曜日で、ホストファミリーと過ごす日でした。朝 10 時過ぎに起きて、ホストシスターたちと朝食をとりました。コストコのマグロのポキと白米をいただきました。家族のみんなは日本食が好きで、よくパックご飯を買っているようで、それを食べました。休日は基本的に、みんなでゆっくり過ごす家族のようで、お昼頃までごろごろして過ごしました。

この日、ゼンは友達の大入学パーティーに誘われていたため、私も一緒に参加しました。アメリカでは個人の節目ごとに大きなパーティーを開くことがあると知りました。この時のパーティーはお店の一角で行われており、入学する大学のイメージカラーで装飾されていました。日本にはあまり見られない文化を体験でき、とても面白かったです。

その後、家に帰り、ジャーニーと一緒に映画を見てゆっくり過ごしました。そのあと、ホストマザーのパパ（グランドファザー）の家に用事があり、お邪魔しました。グランドファザーは初対面の私にも優しく挨拶してくれ、「ゆっくりしてってね」と声をかけてくれました。グランドファザーの奥さん、グランドマザーは日本文化が好きで、着物や壺、着物を着た人形などが置いてあったり、部屋の一部は土足厳禁だったりと日本の生活に近いところもありました。日本の文化が昔から外国で注目されていたことを知り、少し誇らしい気持ちになりました。

その後、ピザ屋さんに立ち寄り、ピザを食べました。デトロイトのピザは少し厚めで食べ応えがあり、とてもおいしかったです。（柏本）

#### **5日目：8月4日（月）**

今日はデトロイト市の副市長、メリア・ハワードさんを表敬訪問しました。

はじめはどんな方なのかドキドキで、みんな少し緊張していましたが、実際にお会いすると、とても気さくな方で、一気に緊張が和らぎ、楽しく交流することができました。

表敬訪問の後、デトロイトの街並みをみんなでモノレールに乗りながら観光しました。その中で「Underground Railroad」という、昔、自由を求めてカナ

ダを目指した人たちを支援する活動について学びました。これは実際の地下鉄道ではなく、奴隷などの方々への支援のためのコミュニティのようなものだと教えていただきました。アメリカの少し辛い歴史を学ぶことで、日本のありがたみ、生まれた環境の幸せについて改めて実感することができました。

昼食にはギリシャ料理をいただき、目の前で火をつけるパフォーマンスもあり、全員スマホを構えながらとても盛り上がりました。注文した料理には必ずと言っていいほどポテトがついており、机には信じられない量のポテトが並んでいました。全員が満腹の中、水野君だけは黙々とポテトを食べ続け、どうやらポテトなら無限に食べられるようです。

また、モノレールは日本のものと比べて揺れが激しく、立つには何かにつかまる必要があるほどでした。アメリカでは電車で犬が普通に乘っており、隣に座った人が気軽に話しかけてきます。ちなみに、隣のおばあちゃんが「大阪」と言ったのを「サッカー」と聞き間違えたのはここだけの話です。

その後、アメリカの100円ショップ「Dollar Tree」で、フェアウェルパーティーの買い出しを行いました。ここには何でもあり、どこを見ても楽しいものばかりでした。

今日は、デトロイトの街並みや人柄、そしてちょっとした歴史等、学びが多い一日となりました。(坂入)



## 6日目：8月5日（火）

今日は Pewabic Pottery を訪れ、タイル作りを体験しながら陶芸について学びました。陶器といえば日本が有名だと思っていましたが、デトロイトでも同じように伝統的で大切な文化であることを知り、驚きました。市内には陶器のタイルを使ってデザインされた場所が多くあり、特に産婦人科病院の壁に使われたタイルは「命の美しさ」を表しているようで、とても印象的でした。

その後は科学博物館にも行きました。大きなスクリーンで海の映像を見たとき、大きな魚が小さな魚を食べる姿に少し怖さを感じましたが、その一方で「命のつながり」や「動物の生き方の大切さ」について考える機会にもなりました。

夕方には、現地の人々が私たちのために歓迎会を開いてくれ、多くの人と交流することができました。温かく迎えてもらえたことが嬉しく、心に残っています。その中で、6年前に派遣団として来日し、豊田市にホームステイをしてい

たリタとも再会できました。彼女は以前、私の家に滞在したことがあり、今回デトロイトで再び会えたことは本当に特別な出来事でした。お互いを覚えていて、再会を喜び合えたことで、友情の深さを改めて感じました。

今回のプログラムを通して、私はたくさんの新しい友達をつくり、ホストファミリーや現地の方々と楽しい時間を過ごしました。デトロイトの人々の温かさや文化の豊かさに触れられたことは、私の心に強く残っています。(鈴木)

### 7日目：8月6日（水）

今日は僕のホストファミリーのDeanも、僕たちと一緒に一日行動しました。まず、DIA (Detroit Institute of Arts) というデトロイト市の美術館を訪れました。そこでは日本やエジプト、アメリカに関する展示を見ました。特に印象に残ったのは、壁全体に描かれたデトロイトの産業に関する壁画です。作る過程に焦点を当てた絵画なので、完成車は絵の中に小さく1台しか描かれていなかったり、黄緑色の肌で労働の厳しさを表現していたりと、たくさんの工夫が施されていて、とても興味深かったです。

午後からは Comerica Park でデトロイト・タイガースの試合を観戦しました。ツインズと対戦し、最終的には負けてしまいましたが、途中でポイントが入ったときには会場がとても盛り上がりました。野球好きな派遣団のメンバーはユニフォームを買い、チャンスが来ると立ち上がって応援していました。日本とは違い応援団はなく、その代わりに大迫力の音楽やモニター映像などを使って、演出も楽しめました。



帰宅後は母方のおばあちゃんの家に行きました。家に入ると、僕たちを笑顔で出迎えてくれました。用意してくれたマカロニグラタンはとても美味しく、また食べたいと思いました。さらに、スイカやチェリー、ドラゴンフルーツのジュースも作ってくれました。食後には、おばあちゃんにホームステイに来てからのことを聞かれ、家族と一緒に思い出を振り返る良い機会になりました。

その後、今後の予定も立て、明日からの生活がより一層楽しみになりました。(水野)

## 8日目：8月7日（木）

この日は、私は地元のパーティーのような場所、クリスマスマーケット、遊園地に行きました。

### ○パーティー

ここでは、地元の方々がワークショップを開いていたり、ピザやアイスを食べたりすることができました。また、テレビで見るような大きな車輪の自転車を初めて見て、周りの方々に囲まれながら実際に乗ってみました。他にも、ホストシスターのローレンと一緒に絵を描いてもらったり、小さなぬいぐるみのようなカバンを作ったりして、とても楽しかったです。

### ○クリスマスマーケット

ここではサンタさんなどの置物がたくさん置かれていて、いつでもクリスマス気分を感じることができました。お店の中は、たくさんのツリーの飾り付けやマグカップなど、可愛いものであふれていました。また、オーナメントに名前を書いてもらえる場所があり、家族全員の名前を書いてもらったり、ポテトチップスの Lay's のオーナメントがあったりして、アメリカらしさを感じられて面白かったです。

### ○遊園地

遊園地は、私の中で特にホストシスターとの距離がさらに縮まった場所だと感じました。お母さんは乗り物に乗らず、その分ホストシスターと二人で過ごす時間が多かったことが、距離が縮まった理由だと思います。私もホストシスターも絶叫系が好きで、ジェットコースターに3回乗ったり、レーザーゲームをしたり、一緒にゴーカートに乗ったりして、とても楽しかったです！レーザーゲームでは、その場でしか会えなかった他の方々ともコミュニケーションがとれて、良い経験になりました。（吉田）



## 9日目：8月8日（金）

今日は、日本総領事にお会いしたり、フォードの工場見学に行ったりしました。

在デトロイト総領事館に入ると、日本語のポスターなどが貼られており、久しぶりに日本語を目にして感動しました。総領事の岸守一さんにお会いすると、早速記念写真を撮りました。「モデルみたいに斜めになって写真を撮ろう」と声をかけてくださったり、海外での面白い話で笑わせてくださったりして、緊張をほぐしてくれました。

いよいよ対談が始まると、総領事になるまでの経歴や仕事内容、派遣団に期

待することなどを話していただきました。その中でも特に印象に残ったのは、「デトロイトは様々なバックグラウンドを持つ人々が共に暮らしているため、多文化が共生することが当たり前になっている」というお話です。日本では多様性や文化への配慮が進められていますが、当たり前として受け入れられているアメリカの風潮には学ぶべき点があると感じました。



その後はフォードの工場見学に行きました。ガイドさんの説明を受けながら、フォードの車が組み立てられ、出荷されるまでの工程を学びました。最新の機械設備や効率的なライン運営の工夫が工場内に詰まっており、日本と比べて工場が広かったり、作業着ではなく T シャツで作業をしたりする違いもありました。将来、車の会社で働く身として、とても貴重な経験をさせてもらったのでここで終わらせず、役立てられるようにしたいです。

明日からは休日、ホストファミリーと遊園地やショッピングモールに行く予定なので、しっかり寝て明日に備えます。(石堂)

## 10日目：8月9日(土)

この日は、起きてすぐにボードゲームをしました。朝ごはんは野菜のみで、家族がベジタリアンだったため、家では野菜しか食べられませんでした。その後もボードゲームを楽しみ、さらに外に出てサッカーをしました。

昼からは、自分のホストブラザーと石堂君、そのホストブラザーと一緒にショッピングモールに出かけました。ショッピングモールでは服や靴、サングラスなどを見て回り、昼食にはショッピングモール内にある「Chick-Fil-A」というファストフード店で食事をしました。そこのオリジナルソースがとてもおいしかったのですが、特に日本ではあまり見かけないハニーマスタードソースは、言葉では表せないほど美味しかったです。皆さんもアメリカに行ったらぜひ食べてみてください。



家に帰った後は夕食を食べ、再びサッカーをしました。

デトロイトは日本と違って日が落ちるのが遅く、夜の7時くらいまで明るいです。サッカーの後は兄弟たちと一緒にゲームや映画を楽しみました。ゲームは「スマブラ」をしましたが、アメリカ人はゲームが得意ではなのか、一方的に

攻めてしまい、ちょっと申し訳なく思いました（ごめん、ホストブラザー）。

この日は本当に盛りだくさんで、すぐに眠りについてしまいました。滞在も約一週間となり、生活にも慣れてきて、この休日はすごく、充実した日でした！（今泉）

## 11日目：8月10日（日）

ホストファミリーと過ごす最後の週末の2日目は、8時に起き、10時頃に朝ごはんとしてパンケーキとフルーツを食べました。土曜日に市場で買ったフルーツはどれも甘くておいしく、朝から幸せな気分になりました。その後準備をして、私が行きたいとお願いしていたトレーダージョーズに出かけました。ここで友達や家族へのお土産としてお菓子をたくさん買いました。



買い物の後、一度家に帰って荷物を置き、次に日本のお盆をイメージした「MIBON」というイベントに行きました。そこでは圧巻の和太鼓パフォーマンスや盆踊り、浴衣や折り紙など、日本の伝統的な文化を楽しめるものがたくさんありました。その後、暑かったので、屋台でかき氷を食べてイベント会場をあとにしました。



帰宅後は、Laurenと二人で歩いてダラーストアに行きました。歩いている間に質問をし合い、お互いのことをたくさん話しました。その後、お店で買った材料でブラウニーを作りました。焼けるのを待つ間、私が持ってきたカップヌードルを食べようと誘い、一緒に食べることにしました。せっかくだからとプレゼントしたお箸を使おうと言って



くれて、久しぶりにお箸を使いました。Laurenは使うのに苦戦しており、やはりお箸は難しいのだと感じました。それでも、お箸という日本の文化を積極的に体験してくれたことが嬉しかったです。



ご飯の後は、みんなでボードゲームを楽しみました。モノポリーという初めて見るゲームで、最初はルールもわからず負けてしまいましたが、家族みんなと一緒に遊べてとっても楽しかったです。

最後の週末は、より仲良くなったホストファミリーとたくさん話し、思い出

を作ることができ、とても充実した時間になりました。(宇治野)

### **12日目：8月11日(月)**

この日はホストファミリーと一緒にナイアガラの滝に行きました。朝 7 時半に集合して、大きなバスに乗って出発しました。バスの中は学校で使うものより高級感があり、トイレまで付いていて驚きました。ナイアガラはカナダにあるため、パスポートを持って行きました。朝が早かったこともあり、行きのバスではほとんど寝ていました。カナダに入るための入国審査場を通り過ぎると、木や畑だけでなく大きな湖も見え、とても楽しかったです。

ナイアガラのある町は全体が遊園地のように、お化け屋敷のようなお店やゲームセンターのようなお店がたくさんありました。バスを降りてナイアガラの滝を近くで見るために船のチケットを買っている間も、水しぶきが飛んできたり、ジップラインを楽しんでいる人がいたりして、とてもワクワクしました。船に乗る前には赤いカッパが配られ、それを着て滝に向かいました。滝の景色は本当に壮大で、とても涼しかったです。

一番大きな滝に近づくにつれて、プチ豪雨のような水しぶきで靴やズボンの裾が濡れてしまいましたが、それでもとても楽しかったです。お昼ご飯の時間は自由行動で、お土産を買ったり町を散策したりしました。大きなゴーカート場もあり、みんなで競争して抜かし合いながら、日本の何倍も広いコースを思い切り走ることができ、すごく楽しかったです。帰りはみんな遊び疲れて眠りながら帰りました。

夜ご飯は「本場のマックを食べてみよう」ということでマクドナルドに行きました。チキンナゲットのソースは10種類以上あり、その中からサルサソースを選んで食べました。帰りは夜遅くなりましたが、とても楽しかったです。

(柏本)

### **13日目：8月12日(火)**

今日は午前中にデトロイト歴史博物館を見学しました。ここでは、デトロイトの開拓の歴史や自動車産業の発展、昔の街並みについて知ることができました。実際に展示を見て触れることで、まるで自分がその時代にタイムスリップしたような気持ちになりました。当時はすべての人が読み書きできたわけではなく、そのためお店の内容が一目でわかるようにショーウィンドウが作られたそうです。そうした工夫が積み重なって、今の私たちの生活が豊かになっていると思うと、とても感慨深い気持ちになりました。

午後にはフェアウェルパーティーを行いました。ホストファミリーへの感謝を込めて、おにぎり・お好み焼き・焼きそばを作りました。気に入ってもらえ

るか不安でしたが、一瞬で完売してとても安心しました。パーティーは、水野君の和太鼓演奏で始まり、二人羽織、おいでん踊り、そして「One Direction」の「What Makes You Beautiful」をみんなで歌いました。最初に披露した水野君の和太鼓は圧巻で、会場中に響き渡る音に思わず聞き入ってしまいました。おかげで会場の雰囲気も一気に盛り上がり、とても良いスタートとなりました。その後の二人羽織では会場が笑いに包まれ、自ら挑戦してくれる人もいました。さらに、おいでん踊りや合唱も、会場みんなで楽しむことができ、とても思い出深いパーティーになりました。



パーティーの最後には、ホストファミリーに向けて感謝の手紙を読みました。手紙を読んでいると、この楽しかった二週間があっという間に終わり、もうお別れなのだ実感し、涙が出そうでした。

これで私たちの二週間のプログラムは終了です。最後までホストファミリーとの時間を大切に楽しみ、明日全員無事に帰国して、この二週間の経験を家族にたくさん話したいと思います。(坂入)

#### **14日目：8月13日、14（水、木）**

プログラムの最終日、いよいよ日本へ帰る日を迎えました。出発の朝は、これまでの思い出を振り返りながら、どこか不思議な気持ちで準備をしました。別れは名残惜しいものでしたが、強い寂しさよりも「楽しい時間を過ごせてよかった」という充実感の方が大きかったように思います。

空港では、ホストファミリーや友達が最後まで温かく見送ってくれました。出発の直前に一人ひとりとハグを交わし、自然と笑顔になりました。短い滞在でしたが、言葉や文化の違いを越えて築けたつながりを実感できた瞬間でした。ホストファミリーや友達から「また来てね」と声をかけてもらい、次に会える日の楽しみができました。

飛行機に乗ってからは、ほっとしたのか疲れが一気に出てしまい、ほとんどの時間を眠って過ごしました。夢の中でアメリカでの出来事を思い出し、まるでまだ現地にいるような気がしました。

最終日は別れの場面こそありましたが、全体として明るく温かい雰囲気に包まれた一日となりました。今回の経験を通じて出会えた人々や思い出に感謝しながら日本へ帰国できたことは、とても良い締めくくりになったと思います。(鈴木)

# レポート

「車」はどこの国でも使われている道具ですが、その捉え方や使い方は国によって大きく異なります。今回、私はデトロイトでのホームステイ体験を通して、アメリカの車文化に直接触れることをテーマにしました。ここでは、自分の目で見て、肌で感じた違いや発見についてまとめたいと思います。

まず私が最も驚いたのは、道路の広さです。ホストファミリーに車で送ってもらった際、街中の通りでも片側三車線以上が当たり前で、交差点や駐車場も非常に広く設計されていました。住宅街に入っても道路幅は広々としており、日本のようにすれ違いに困る場面は一度もありませんでした。このような道路環境に合わせて、走っている車もとにかく大きかったです。特に多く見かけたのはSUVやピックアップトラックで、日本では見かけないサイズの車が一般的でした。私のホストファミリーは例外的に軽自動車に近いコンパクトな車を使っていましたが、アメリカでかなり珍しい存在だと話していました。近所のスーパーで駐車場に車を止めた際、自分たちの車が他の車に囲まれて小さく見えたのがとても印象的でした。

大きな車が多い理由の一つに、ガソリン価格の違いがあります。ホストマザーとガソリンスタンドに行った際、1ガロン3ドルほどで、計算すると1リットルあたり約120円、日本の約6割の価格でした。そのため燃費よりも快適さやパワー、安全性を重視する人が多いため大きな車に乗る人が多くなるとのことでした。

また、フォードの工場見学に参加し、自動車が生産される現場を見る貴重な体験もできました。工場の内部では、膨大な数の部品が無駄のない動きで自動搬送され、大型のピックアップトラックやSUVが少しずつ組み立てられていく様子を間近で見ることができました。作業員一人ひとりが効率的に働けるような仕組みづくりがされており、人と機械の連携がスムーズに保たれていることが印象的でした。特に、完成車がラインから出てくる瞬間には、ものづくりの迫力とスケールの大きさを肌で感じました。

今回のホームステイを通して、車は単なる移動手段に留まらず、文化や暮らし方、さらには環境問題にも深く関わっていることを学びました。また、豊田市も日本を代表する自動車産業の中心地として、今後も環境に優しい技術開発や地域の暮らしやすさの向上に貢献していくべきだと感じました。この経験を活かし、将来、自動車の分野で日本の発展に貢献できる人間になりたいと思います。さらに、ネットで見聞きするだけでは分からないことも、現地で初めて実感できることを学び、これからも未知の世界に飛び込み、挑戦を続けられる人間でありたいと思います。

私は常に、異なる環境に身を置くことを求めています。異なる環境に柔軟に対応できる態勢を持つことは、社会に出るときに役立つと思うからです。今回の海外派遣に参加した理由も同様で、今まで自分のいたフィールドとは全く異なる場所に降り立ったとき、自分はどのように対応できるのかと思ったからです。結論として、自分は1年あっても対応できないのではと考

えました。その理由は大きく二つあります。

### 1. 常識が通じないこと

「常識が通じない」とはどういうことでしょうか。例を挙げて説明します。日本では、多くの方が時間に厳しく、誰かに「〇〇時〇〇分に〇〇に集合ね」と伝えられると、大抵の日本人は約束の時間に集まります。場合によっては約束の5分前、10分前、あるいは30分前に到着する人もいます。ではそれが“アメリカ”という国になった時どうなるのでしょうか？多くのアメリカ人は、10分程度の遅刻を平気でします。自分はこれに慣れられませんでした。なぜなら、自分にとって「時間を守ること」は基準だからです。これが「常識が通じない」ということの一例です。

### 2. 日本人とは異なる個性

もう一つの理由は、日本人とは異なる個性の存在です。アメリカ人の特徴の一つは「我が強い」ということです。自分にとっては、自分の意見をはっきり言える環境があるのは良いことだと感じました。対して、多くの日本人は「謙遜」や「譲り合いの精神」を大切にしており、これは世界的に見ると珍しい文化でもあります。しかしその一方で、発言者が周囲に合わせて「ここでは自分の意見を言わないほうがいいのでは…」と引き下がってしまうことがあり、私はそれが良くないと常に感じていました。だからこそ、日本にもアメリカのように、自分の考えを積極的に表現できる文化があるといいなと思いました。

また、日常生活の中でも日本ではあまり見られない光景を多く経験しました。私のホストファミリーは全員ベジタリアンで、ホームステイ中に家で肉を食べることは一度もありませんでした。また、周囲には黒人の方や、第一言語が英語ではない人も多く、この様なところも日本ではあまり馴染みのないことだと思いました。このように、アメリカは個性が豊かなとても魅力的な国だと感じました。

こうした環境の違いは、良い面もあれば、不思議に感じる面もあると感じました。今回の派遣で、自分は日本では体験できない貴重な経験をすることができました。将来、海外で働きたい自分にとって、この体験を社会人になるまで待つのではなく、学生のうちから積極的に活かしていきたいと思います。

## デトロイトにある多様な文化から感じたこと

宇治野 絢香

みなさんは、デトロイトの中に「メキシコ」があることをご存知ですか？

私は今回の研修で、デトロイトにはアメリカだけでなく、多様な国の文化や宗教が含まれていることを知りました。具体的にどういう国のどういうものがあつたのか私が実際に見た2つのことを歴史的背景と共に紹介します。

### 1. ユダヤ教ならではの服装を着た人々

博物館に行った際、キツパをかぶった男性を見かけました。キツパとは、ユダヤ教を信仰す

る男性が着用する帽子です。ユダヤ人は 19 世紀から 20 世紀にかけてデトロイトに移住しており、街とのつながりがあります。日本人の多くは、特定の宗教を信仰しなかったりほかの宗教も受け入れたりするのに加え、ユダヤ教徒の割合が非常に低いため、日本で生活しているなかではなかなか触れることない宗教を市民の「服装」で感じることができました。

## 2. メキシカンタウン・アラビックタウン

デトロイト南西部に行くと、デトロイトの「メキシコ」に到着します。デトロイトとメキシコは自動車産業でつながっており、メキシコは自動車部品の重要な生産拠点です。メキシカンタウンには、本格的なメキシコ料理のレストランや現地の食材が手に入るスーパーがあり、看板がスペイン語で、どこをみてもメキシコに来たように感じられる景色が広がっています。私たちは実際に 2 日目にお昼ご飯を食べに Mexican Village というレストランに行き本場のブリトーとタコスを食べました。

アラビックタウンは、ホストファミリーと週末に訪れました。ここにはアラビア系で有名なピスタチオスイーツや料理を提供するレストランやスーパーがあり、私は実際にいくつかアラビア料理を試してみました。和食ではあまり感じない強い風味に圧倒され私はなかなか食べることができませんでした。しかし、自分の知らない文化に触れることができ、とても貴重な体験となりました。

これらのことから、デトロイトの街にいるだけで、人々の服装や街並みを通して多様な文化を感じることが出来ます。多様な歴史的背景をもつさまざまな国の文化や宗教がありますが、何十年、何百年経った今でも街の中その国を感じることが出来るのは、それぞれの文化が尊重されている証だと感じました。こうした街並みのあるデトロイトをうらやましく思います。ここに住めば、自然とさまざまな文化に触れられるからです。

世界の国の文化を理解し尊重するためには、自ら積極的に触れて知ることが何より大切だと思います。豊田市でも、身近なところで多様な国や文化に触れられる機会をもっと増やせたらよいと思いました。そしてまずは自分自身が世界と文化をしっかりと理解し、その上で周囲に広める機会を作れる人になりたいと思いました。

## ご挨拶

柏本 穂美

今回、私はアメリカに行く前に、前回の派遣団の方々からある話を聞きました。「北アメリカでは、かつて奴隷制度から逃れてきた人たちが住んでいた地域でもあるため、仲間意識からか、皆さんよく挨拶をしてくれるので、挨拶には必ずこたえるように」とのことでした。そこで、現地では挨拶に気を付けながら生活してみました。ここでは、私が生活の中でよく使った言葉や気づいたことを紹介します。

まず、「Good ○○」についてです。朝や昼、夜に「Morning」「Afternoon」「Evening」といった言葉をよく使っていました。日本語では「こんにちは」にあたりますが、お昼時にはどちらかというと、多くの人が「Hi」や「Hello」を使っていました。私も「Hi」と声をかけられたとき、こたえるとプチトークのように会話が広がり、現地の人と自分のこたえられる範囲で会話することが出来ました。

次に「Have a nice day」です。訪問先でセキュリティーチェックを受けた際、担当の方が「Have a nice day」と声をかけてくれました。最初はどう返せばよいかわからず、笑顔だけで対応してしまいましたが、周りの人の会話を聞くうちに「You too」と返せば良いことに気づきました。次のセキュリティーチェックで自分も「You too」と返すと、相手がにこやかに笑いかけてくれました。この経験から、外国では、挨拶はその都度返すことが礼儀であると知りました。また、友達からも、自分の返事一つでその後の対応に影響することがあると聞きました。セキュリティーチェックのときだけでなく、買い物の会計時などでも同じことが言えます。そのため、私は「You too」と言い忘れないように気を付けるようにしました。さらに、あるお店では、相手から挨拶されなくても自分から「Hi」と言わないと気まづくなってしまうことにも気づきました。これまで受け身で過ごしていたため、最初は何と言えればいいのかわからず少しパニックになりましたが、その後、自分から挨拶できるようにしようと反省し、意識的に行動するようになりました。

この二週間、挨拶を通して多くのことを学びました。アメリカの文化や、コミュニケーションにおける挨拶の大切さ、自分から行動することの重要性など、頻繁に人とコミュニケーションをとる国だからこそ得られた貴重な経験だと思います。改めて、挨拶には相手との関係を築く意味が含まれていることを実感し、これからも人との交流を大切にしていきたいと感じました。

## 世界共通言語

坂入 翔真

私は英語があまり得意ではなく、会話もほとんど上手くいきませんでした。しかし、この二週間の経験を通して、英語であろうと日本語であろうと、何語であってもコミュニケーションで大切なことに気づきました。それは「笑顔」と「感謝」です。一見当たり前前のことのようにですが、言葉が通じなくても、この二つは必ず相手に伝わります。そして、それはとても大切なものです。

私は先ほども述べたように、英語が得意なわけではありません。最初の頃は、ほとんど何を言っているのかわからないこともありましたが、しかし、そんな私が大切にしていたのが「笑顔」です。言葉が分からないとき、その不安な気持ちを表情に出してしまうと、相手に伝わってしまいます。最悪、何も話してくれなくなることもあります。しかし、笑顔で接していれば、相手はどうか説明しようと試行錯誤してくれます。そして、伝わったときにはお互い笑顔になります。このように、笑顔で過ごすことで、言葉が通じなくても心を通じ合わせることができます。笑顔で接しているうちに、気づけば会話のハードルも自然と下がっていました。笑顔はコミュニケーションのスタートであり、その力はどの国でも共通だと強く感じました。

そして、もう一つの世界共通言語である「感謝」は、人と関わる上で最も大切なことだと改めて実感しました。「親しき中にも礼儀あり」という日本のことわざの通り、どんな間柄であっても感謝を忘れてはいけません。それをアメリカの人たちは、日常生活の中で体現しているようでした。アメリカの人たちは、非常によく「Thank you」

と言います。そして、「Thank you」と言われるようなことを進んで、当たり前のように行います。例えば、私がお世話になったホストファミリーは普段は朝食を食べない家庭でしたが、ホストマザーは私のために毎朝早く起きて朝食を作ってくれました。私がそのことに感謝を伝えると、「もちろん！当たり前だよ！」と笑顔で返してくれました。その一言から、アメリカの方々の優しさや寛容さを強く感じました。また、自分ももっと感謝を伝えなければと感じました。感謝を伝え続けるうちに、ホストファミリーも自然にたくさん「Thank you」を言ってくれるようになり、行動も自然と変わっていきました。

このように「感謝」と「笑顔」の力、そしてその大切さを改めて実感し、この二つは世界のどこにいても価値のあるものだとして深く胸に刻みました。大人になっていく中で、この二つの価値を忘れがちになるかもしれません。しかし、忘れないためにも、自分の環境を当たり前と思わず、常に感謝の気持ちを持ち、笑顔あふれる生活を送り続けていきたいと思っています。

## コミュニケーションの違い

鈴木 桃佳

今回の留学を通して、私が最も強く感じたのは、アメリカと日本におけるコミュニケーションの取り方の違いです。普段、日本で暮らしていると気づきにくい部分ですが、実際にアメリカで生活することで、その違いを、体験を通して理解することができました。

アメリカでの生活では、相手に自分の意見や気持ちをはっきりと伝えることが非常に重視されていると感じました。ホストファミリーや友達との会話でも、「Yes」や「No」を明確に伝えることが当たり前で、遠慮して曖昧な返事をする、かえって相手に意図が伝わらないことがありました。また、知らない人でも気軽に話しかけてくれる場面が多く、フレンドリーでオープンな雰囲気を強く感じました。

一方、日本では、相手の気持ちを考えてあえてはっきり言わないことが多いと感じます。例えば、相手の気分を害さないように曖昧な表現を使ったり、「No」とは言わずに別の言い回しをしたりすることがよくあります。これは、日本の文化において「空気を読むこと」や「和を大切にすること」が重視されているからだと思います。

この違いは、実際にホストファミリーとの生活の中でも体験しました。ホストマザーに「何か必要なものがあれば遠慮なく言ってね」と言われたのですが、最初はなかなか自分から「これが欲しい」と言い出せませんでした。しかし、正直に伝えたところ、ホストマザーは笑顔で「言ってくれてありがとう」と答えてくれました。この体験を通して、遠慮しすぎず自分の気持ちを素直に表すことの大切さを学びました。

また、外出先でも相手のフレンドリーさに驚かされました。買い物をしているときにお店の人が「その服、似合ってるよ」と声をかけてくれたり、通りすがりの人が笑顔で挨拶してくれたりすることがあり、日本ではなかなか体験できない温かさを感じました。

このような経験を通して、私は「相手に伝える勇気」と「相手を思いやる姿勢」の

両方が大切なのだと学びました。日本の文化で育った私にとって、相手を気遣うことは自然なことですが、そこにアメリカ的な「はっきりと伝える力」を加えることで、よりよいコミュニケーションができると思います。今回の留学で得たこの気づきは、今後の生活の中でも必ず役立つと感じています。

## 日本文化の浸透と文化交流の意義

水野 惟斗

### 1.はじめに

アメリカで2週間過ごす中で、たくさんの日本文化に触れる機会があり、文化を通じて仲良くなれた人もいます。そこで、現地で触れた日本文化をもとに、その浸透の背景や文化が果たす役割について考えることにしました。

### 2.現地で触れた日本文化

#### ①和太鼓

僕は中学生のころから和太鼓のグループに入っています。和太鼓は日本特有のリズムで迫力があり、とても格好良いので Farewell Party で和太鼓の演奏をし、その魅力を伝えたいと思いました。しかし、日本から和太鼓を運搬することが困難でした。そこで、現地で和太鼓を借りることができないか調べたところ、「五大湖太鼓センター」という和太鼓のグループがあることを知りました。そして派遣前に何度かメールでやりとりをした結果、和太鼓を貸していただけることになりました。

やりとりの中で、僕は五大湖太鼓センターの方から、8/10(日)に Cranbrook で開催される「MI BON SUMMER FESTIVAL」というお祭りに招待していただき、ホストファミリーと一緒に和太鼓パフォーマンスを見に行きました。観客には日本人だけでなく多くの外国人もおり、曲が終わるたびに大きな歓声が上がって、お祭りは大盛況でした。僕の大好きな和太鼓が日本以外でも演奏されているとは思っていなかったのが意外でしたが、同じものを好きに思っている人がいて嬉しさを感じ、演奏者全員で一つの曲を作り上げていて感動しました。



#### ②アジアンマーケット

アジアンマーケットはアメリカに住むアジア系の人々のためにあるものだと思っていました。しかし、僕のホストファミリーもよく訪れる店がありました。そこには日本などアジアのお菓子や食材、飲み物などが売られており、おすすめのものを紹介しながら買い出しをしました。かっぱえびせんや、ネクター、ピーチフラッペキャンディーなどは特に好評でした。同じものを一緒に食べて感想を伝え合い、おいしさを共有できる喜びを感じました。

#### ③箸

ホストファミリーの中で、両親と長男が箸を使うことができ、実際に使っているところを見てとても驚きました。長男に理由を聞いてみると、「箸を使っている動画を見て、格好いいと思い練習した。」と言っていました。パーティーでは他の家族にも使っている人がいました。

### 3.考えたこと

なぜ日本文化がこのように親しまれているのか考えてみました。ホストファザーは「デトロイトのあるミシガン州は海に面していたり、カナダに近かったりすることから、同じ州でも様々な人がいる。だから地域によって食文化などが大きく異なっている。」と教えてくれました。様々な文化に触れる機会が多く、「違うのがあたりまえ」と考える広い視野を持っているため、日本の文化も受け入れやすいのではないかと考えました。

また、日本領事館へ訪問した際に領事の岸守さんは「海外で過ごす中で何かトラブルがあったときに笑えることが大切」とおっしゃってみえました。これは「自分と異なる考え方があり、自分の思い通りにならないのは当たり前と考えることが必要」ということではないかと考えます。

アメリカと比べ日本では様々な文化に触れる機会が少なく、自分たちと「違うのがおかしい」と考えやすいように思います。だからこそ、多くの文化や考え方に触れたり、違う考え方も受け入れようと意識したりして、視野を広く持てるようにしたいです。

さらに、Farewell Party で和太鼓演奏を通して、多くの人とのつながりが広がったと思います。和太鼓センターの方に勇気を出してメールを送り、やりとりを続けたことで、同じ和太鼓をやっている仲間として親しみを感じ、縁もできました。そのおかげで、MI BON FESTIVAL に招待していただき、そこで先日お会いした岸守領事と再会したり、現地で和太鼓をたたいている人と話す機会ができたこと、つながりの輪が広がり、現地についての理解も深まったと感じます。

またパーティーで僕の和太鼓の演奏を聞いてくださった方々が和太鼓に興味を持ってくれ、話したこともない人から声をかけてもらうこともあり、「文化を通じて人同士も繋がるができる」ことを実感しました。

## ホストファミリーに鍛えられた社交力

吉田 遥香

ホストファミリーと過ごした日々で、私が最も鍛えられたのは「社交力」だったと強く感じています。私はもともと英語が得意ではなく、会話に自信がありませんでした。日本にいるときには、英語を話す場面になるとできるだけ発言を控えてしまったり、簡単な言葉だけで済ませてしまったりすることが多かったと思います。しかし、アメリカでの生活は、そんな自分を大きく変えるきっかけになりました。

ホストファミリーはとにかくよく話しかけてくれました。朝起きたときから夜寝る前まで、常に会話のチャンスがあり、自然と「逃げられない」状況が作られていました。毎日のように「今日はどうだった？」と聞かれ、学校や出かけた先での出来事を説明する必要性がありました。最初のうちは英語がすぐに出てこず焦ったり、文法を間違えて恥ずかしくなったりすることもありました。それでも相手が真剣に耳を傾けてくれたことで、「とにかく言ってみよう」という気持ちになり、だんだんと会話が続けられるようになっていきました。

また、リビングで過ごす時間が長かったことも、社交力を鍛える大きな要素でした。日本では自分の部屋で過ごすことが多かったのですが、アメリカでは家族と一緒にリ

ビングで過ごすのが当たり前でした。テレビを見ながら意見を交換したり、食後に雑談したりする時間が多くあり、そのたびに英語を使うことになりました。最初は聞き取るだけで精一杯でしたが、次第にただ返事をするだけでなく、自分から質問をしたり、話題を広げたりする工夫ができるようになりました。

特に印象的だったのは、ホストファミリーが私をパレードに連れて行ってくれたことです。人がとても多く、にぎやかな雰囲気の中で、ホストマザーは友人や知り合いと次々に挨拶を交わしていました。そのたびに私も紹介され、自己紹介をする場面が何度もありました。初めは緊張で声が小さくなってしまいましたが、何度も繰り返すうちに自然と笑顔で応じられるようになりました。パレードの最中でも、隣にいた知らない人から気軽に話しかけられることがあり、驚きつつも必死で英語を返しました。日本にいた頃の私なら、急に話しかけられたら返事に困って黙ってしまったと思います。しかし、この経験を通して「まずは間違えてもいいから答える」という勇気を持つことができました。

最初は無理やりでも会話を続けるしかありませんでしたが、その積み重ねが確実に自分を変えていきました。英語への抵抗感が少しずつ薄れ、言葉が出てこなくても表情やジェスチャーで補えば相手に伝わることを実感しました。さらに、会話を続けるためには自分から「あなたはどう思う？」と聞き返したり、関連する話題を広げたりする工夫が必要だと学びました。これはまさに「社交力」という筋肉を使ってトレーニングしている感覚でした。

この経験を通じて、コミュニケーション能力は生まれつきの得意不得意に左右されるものではなく、「場数を踏むことで鍛えられる」ものだと実感しました。以前の私は、英語でスラスラ話せる人や人付き合いが上手な人はもともとそういう素質を持っているのだと思い込んでいました。しかし、実際に自分がたくさんの場を経験し、少しずつ変わっていく姿を感じることで、その考えは大きく変わりました。

まとめると、ホストファミリーのおかげで、まるで“社交力の筋トレ”を強制的にさせられたような気分です。確かに最初は大変で、英語が思うように出てこず悔しい思いをしたこともありましたが、そのおかげで積極的に話す勇気が身につきました。これからもこの経験で得た社交力を活かし、日本での学校生活や将来の進路でも人とのつながりを大切にしていきたいと思います。そして、英語が苦手だからといって引込むのではなく、「とりあえず挑戦してみる」姿勢を持ち続け、より多くの人と交流していきたいです。

**派遣を終えて**

今回、私たち派遣団は2週間にわたりデトロイトでホームステイを経験しました。多くの行事や訪問で非常に密度の濃い毎日でしたが、新しい経験への期待が勝り、一日一日が新鮮でした。ホストファミリーと高校生の皆さんとの初対面では、少し緊張し思うように会話ができない様子も見られましたが、温かく迎え入れていただいたことが以降の滞在の大きな安心感につながりました。



デトロイト見学ツアーでは、見過ごしてしまいそうな建築や地域の背景について丁寧に解説していただき、私たちが街をより深く理解する手助けとなりました。自動車産業における歴史的人物の家 HENRY FORD HOUSE や移民の歴史、GM の本社移転など再開発が進むエリアについて説明を受ける中で、デトロイトという都市が単なる「自動車の街」ではなく、多様な文化や人々によって支えられてきたことを実感しました。特に、フォードがかつて新聞広告を出し、日本の若者が渡米したという話は強く印象に残りました。日本とデトロイトのつながりが想像以上に古く、また人の思いによって築かれてきたことを知り、交流の歴史を身近に感じることができました。

翌日のデトロイトをめぐるツアーは、市内を走る People Mover への乗車から始まりました。街並みを少し上からゆったりと眺めることができ、デトロイトの迫力ある高層ビル群や美しい歴史的建造物を身近に感じました。そして、私たちは Greek Town 駅で下車し、レンガ造りのアーケードを歩いてギリシャ料理レストランへ向かいました。デトロイトで突然「ギリシャ」という言葉に出会うのはとても意外でしたが、デトロイトならではの地域の多様性を象徴する一例であると知りました。アメリカの一都市でありながら、多様な民族が生活を営み、文化が混ざり合っている様子は、日本ではなかなか目にしない光景であり驚きでした。

その後もアメリカでの生活は本当に目まぐるしく、私たちにとって、とても素晴らしい経験となりました。在デトロイト日本国総領事館を訪問した際には、総領事の岸守一氏から貴重なお話を伺いました。日本人が世界からどのように見られているか、日本人の美德とされる真面目さや誠実さ、我慢強さについての言葉はとても印象的でした。さらに、高校生の皆さん一人一人の質問にも丁寧に答えていただき、今後の進路や人生を考えるうえで参考となる具体的な助言を受けることができました。国内だけでは気づかない自分たちの特徴を改めて意識する機会となり、海外で過ごす意味を考えるきっかけになったように思います。また、外交の現場で働く方の考えに直接触れられる機会は今一つないことです。この時の感動を、ぜひ大切にしたいと思います。



ホストファミリーと過ごす週末では、私はホストファザーの弟夫婦に会いに、ホストマザーと3人でカナダを訪れました。デトロイト川を挟んですぐ向こうに別の国があるという地理的な感覚は、日本では想像しにくく、とても不思議でした。マーケットでは地元の食材や雑貨が並び、生活に根ざした空気に触れることができました。また、ホストマザーの教会へ二人で行った時は、野外で大勢の人がドラムやギターなどの演奏とともに歌う様子が圧倒的で、文化の違いを強く感じました。音楽の迫力だけでなく、そこに集う人々の熱心さにも驚かされました。観光地を訪れるだけでなく、日常生活の延長の中にある文化の違いを知ることができたのは、非常に貴重な体験でした。



週明けには、また派遣団でナイアガラ滝を訪れました。想像以上に暑く強い日差しでしたが、実際に船に乗って滝の近くまで進んだ時、その水量の大きさに圧倒されました。フード付きポンチョを着ていたとはいえ、顔や手足は水しぶきで完全に濡れ、自然のエネルギーを全身で感じました。滝の迫力は言葉では言い尽くせないほどで、日本では体験できないスケールの大きさに驚かされました。また、Wright Museum of African American History や Detroit Historical Museum も訪れました。私たちは、展示を通して先住民の時代からヨーロッパ諸国の入植期に至るまでと、それからの歴史を知り、人々の生活や価値観が時代とともに大きく変化してきたことを学びました。かつては常識だったことが今では非常識とされるように、世の中は常に移り変わっていくものだ改めて感じました。説明を聞きながら、私たちが今「当たり前」と思っていることも、将来は異なる評価を受けるかもしれないと考えさせられました。

滞在の最後の夜には、高校生の皆さん主体でさよならパーティーを企画・運営しました。買い出しや調理、会場準備、進行などを自分たちで分担しながら進める中で、協力し合う姿が多く見られました。サポートが必要な場面もあるかと思っていましたが、実際にはほとんどのことを自分たちで解決し、最後まで責任をもって取り組む姿に頼もしさを感じました。互いに助け合いながら準備を進める中で、参加者同士の絆もさらに深まり、このプログラムの集大成にふさわしい時間となりました。こうした経験が、今後の学校生活や社会生活に生かされることを願っています。

これら2週間の経験を通じて、異文化理解の重要性を強く感じました。現地に行き、人と出会い、生活を共にすることで得られる気づきがあります。時間の感覚や食習慣、ものの大きさ、親しみの表現方法など、日常のささいな場面で違いを体験し、その違いを受け入れることで初めて深く関わるすることができます。違いを受け入れようとする姿勢こそが国際交流の基本であると改めて感じました。



引率者としては、高校生の皆さんが自分で考え、行動し、挑戦する姿を間近に見ることができ、その成長を実感しました。慣れない環境の中で互いに支え合い、それぞれの力を発揮している姿は、今後の人生の基盤となる力になるだろうと思います。そして私自身も、現地での出会いや学びを通じて、日本とアメリカの違いを理解するだけでなく、日本人としてどのように行動すべきかを改めて考える機会となりました。最後に、このような貴重な機会をいただいたことに心から感謝申し上げます。豊田市多様性社会共創課や、豊田市国際交流協会の皆さま、ホストファミリーや、フレンズ・オブ・トヨタの皆さま、コーディネーターのローズさん、そして常に私を支えてくださったサブリーダーの木下さんをはじめ、多くの方々のお力添えによって、このプログラムが実現しました。皆さまの温かいご支援とご協力に、心より本当にありがとうございました。



### 肌で感じた姉妹都市

### サブリーダー 木下 開斗

豊田市とデトロイト市は半世紀以上にわたり姉妹都市として交流を続けており、今回、サブリーダーとしてその長い歴史の一端を担えたことは大きな喜びであり、同時に身の引き締まる思いでもありました。これまで私は、国内で事務局として派遣団の運営を支えたり、デトロイト市からの派遣団の受け入れを担当したりする立場でこの事業に関わってきましたが、今回初めて現地を訪れ、これまで報告書や写真を通じてしか見ることのできなかつた交流の姿を、現地の空気と共に感じることができました。サブリーダーとして学生の挑戦を支えるとともに、自身にとっても大きな学びを得る機会として、今後の交流事業に活かす思いで臨みました。

派遣団の高校生たちは、事前研修を通じて自然に打ち解け、短い時間で互いに信頼関係を築いていきました。英語での自己紹介や危機管理の演習、フェアウェルパーティの準備などに協力して取り組む中で、仲間としての一体感が次第に形づくられていく様子は非常に頼もしく、若さならではの柔軟さと吸収力に強く感心しました。ホストファミリーとの交流においても、文化や言葉の違いを恐れず自分の考えを伝え、相手の思いに耳を傾ける姿が見られました。迷いながらも一歩を踏み出すその積極性は印象的であり、大人顔負けの姿勢に心を動かされました。そうした姿を目の当たりにし、国際交流の本質は「互いを理解し合うこと」にあるのだと改めて気づかされました。

滞在中はちょうどデトロイト市の市長選挙の時期であり、各家庭の玄関先には支持する候補者の看板や旗が掲げられているなど、家庭ごとに政治的な意思をはっきりと示していることに強い印象を受けました。日本では、個人の政治的な立場を公に示すことにためらいを覚える人も多い中で、この様に日常の場で自分の意思を明確に示す光景は新鮮であり、市民一人ひとりの意識の高さを実感しました。地域の将来に真剣

に向き合う市民の姿に触れ、民主主義が暮らしの中にしっかり根付いていることを感じたことは、今回の派遣の中でも特に印象に残る体験となりました。

また、街の随所で感じられたのがフォードの存在感です。20世紀初頭、一般的な工員の日給が2～3ドルであった時代に、フォードは日給5ドルという高賃金を導入しました。この「five-dollar day」は、労働者の生活を大きく変えただけでなく、地域経済全体にも波及し、街の成長を後押ししました。当時は画期的な取組として米国に留まらず世界中から注目され、日本からも渡米する者がいたと聞きます。結果として、デトロイトは「自動車の街」として世界的に知られる都市へと発展していきました。今でも、街の至る所にはフォードの名を冠した施設や建物が多く見られ、企業の歩みが都市の姿そのものに刻まれています。豊田市もまた、自動車産業とともに成長してきた歴史を持っており、両市の歩みには多くの共通点があります。産業の成長が地域社会に及ぼす影響を考えるうえで、デトロイトでその足跡を直に見ることが出来たことは、豊田市の成り立ちを振り返る貴重な機会となりました。

公式行事や表敬訪問では、両市の交流の積み重ねを肌で感じました。市庁舎での表敬訪問やウェルカムパーティでは心のこもった温かな歓迎を受け、大切に育まれてきた姉妹都市の絆を改めて実感しました。特に、これまでオンラインでしかやり取りをしていなかったデトロイト市担当者のローズ・ラブさんと直接お会いできたことは、忘れがたい出来事です。笑顔で迎えてくださる姿に、長年にわたり交流を支え続けてくださっている方々の存在が、この事業を今日まで継続させてきたのだと強く感じました。

振り返れば、今回の派遣を実りあるものにしてくれたのは、人との出会いやつながりにほかなりません。ホストファミリーの温かなもてなし、デトロイト市の方々による細やかな気配り、リーダーの近藤さんをはじめとした派遣団同士の支え合い、そして豊田市で日頃から支えてくださった多くの方々の協力。その一つひとつが積み重なり、この派遣はかけがえのない経験となりました。



国際交流は行政による制度や仕組みで成り立つものではなく、人と人が信頼を寄せ合い、思いやりをもって関わることによって支えられています。今回の派遣で学生の挑戦を見守りながら、自分自身もまた、制度や仕組み以上に「人の力」こそが交流を動かす原動力であると、改めて強く実感しました。姉妹都市交流は半世紀以上続いてきた歴史がありますが、その価値を次の世代にどうつなぐかは、私達の取り組みにかかっています。今回の経験を糧にして、これからも人とのつながりを大切にしながら、交流を支える一員として積極的に関わり続け、姉妹都市の絆を次の世代へとつなげていきたいと思ひます。



デトロイトへの派遣は、僕に多くの新しいことを教えてくれました。初めての長時間フライト、時差ぼけ、煌びやかな高層ビル群、街中のアーティスティックな落書き、大きすぎるハンバーガー、教科書で見ていたナイアガラの滝。世の中には自分の想像以上のものがたくさんあり、それを自分の目で見ると衝撃が大きいということを実感しました。また、家族への愛情表現、宗教観、人との接し方など、今まで自分が「普通」としてきたことが、自分だけの普通だと気づかされる場面もありました。

派遣中はただただ楽しいだけの感覚でしたが、振り返ると確実に自分の考えに影響を与えています。一番印象に残っているのは、ホストブラザーのサミールの言葉です。「家族は生きていくうえでの心のよりどころ。だから大切なんだ。」17歳の同い年のサミールが言ったこの言葉は衝撃的でした。きっかけは、僕が家族の名前を聞いたことです。これから2週間一緒に過ごすにあたって、ファミリーの名前はしっかり覚えておこうという何気ない気持ちで聞きました。しかしサミールは、彼のママ（ロリータ）から始まり、いとこやおばさん、祖父母など、失礼ながら覚えきれないほど多くの人を紹介してくれました。それも一人ひとりにエピソード付きです。正直、驚きました。家族の名前を聞いたのは、これから一緒に過ごす人だけのつもりだったからです。しかし、サミールにとっての「家族」は僕の想像を超えており、その感覚が特別なものではないことも、2週間を通して知ることができました。家族を大切にするアメリカ文化に触れた瞬間だったと思います。



派遣期間中にはたくさんのイベントがありました。豪華なホテル宿泊、デトロイトスタジアムでの観戦、美術館鑑賞、デトロイト市長表敬訪問、在デトロイト日本領事館訪問、フォードの工場見学、一日がかりでカナダのナイアガラの滝観光も経験しました。どれも初めてのことで、全てが刺激的で貴重なご褒美体験でした。しかし、ホストファミリーや現地の高校生と過ごした時間の方が、僕にとってはより思い入れが強いかもしれません。毎日の食事、一緒に映画を観に行ったこと、モールでの買い物、サミールのおばさんが故郷のアフリカから帰省して僕にお土産をくれたこと、デトロイトの高校生と日本の文化について話したこと——普通の旅行では味わえない貴重な時間を過ごすことができました。

そんな時間の中での大きな収穫は『察しない会話術』です。話していてわからないことがあれば相手に聞く。不思議に思ったことがあれば相手に聞く。とにかく聞く、聞く、聞く！それによって会話も続いて、相手のこともより知れる。遠慮がちな僕にとっては慣れない会話で戸惑いましたが、すぐに慣れ、とても楽で良いものだと思います。日本は、相手に察することを求める環境だと思います。そのことが良いとか悪いではなく、日本の文化なのだと理解しました。ですが、せっかく知った『察しない会話術』を無駄にはしたくありません。デトロイトの時のように会話をするにはか

なりの勇気があります。もしかしたら相手に引かれてしまうかもしれません。でも、少しずつでも敢えて察しない会話をして、相手のことをもっと知る、自分のことももっと知って貰えるようにしたいと思っています。

帰国前のさよならパーティーでは、感謝の気持ちを込めて日本料理を振る舞ったり、二人羽織や豊田のおいでん踊りを披露しました。焼きそば、お好み焼き、フルーツポンチ、どれも好評で、日本食が喜ばれたことは誇らしかったです。他に喜ばれて意外だったのが、ワンダイレクションの What Makes You Beautiful を歌ったことです。

普段あまり洋楽を聴かないので覚えるのは大変でしたが、喜んでもらったので頑張っ

て練習して良かったと思えました。  
デトロイトに行くにあたって、派遣団のみんなと沢山の準備をしました。日本や豊田市を知ってもらうためのことは当然ですが、デトロイトの文化を理解することが喜ばれるのは意外で、僕の中では新たな発見でした。一方的に自分のこと（日本のこと）を伝えるだけでなく、相手のこと（アメリカのこと）を理解していると伝える。これがコミュニケーションの面白い方だと知れたことは大きかったです。



デトロイトでの経験は、僕に沢山の気づきと刺激を与えてくれました。サミールから学んだ家族との関わり方。デトロイトの人と話すことで知った察しない会話術。

良い意味でのルーズな感覚をもつこと。どれも僕にとってはプラスの発想や行動です。デトロイトでの生活は居心地が良く、僕にはアメリカ生活が合っているのではと思うほどでした。食事さえ合えば（できれば土足文化も無いほうが良いです）このままアメリカに住みたいとすら思いました。デトロイトの食事はどれも美味しかったのですが、正直に言うと味が濃く、日本のお茶が恋しかったです。ですが日本茶が買えないのでお水ばかり飲んでいました。しかし、為替差でお水の値段が高い！500ミリリットルで3ドルなので、日本円で1本400円以上になります。それもまた良い思い出です。

そしてこの派遣を通して、僕は沢山の人の応援されていることもわかりました。リーダーの近藤さん、サブリーダーの木下さんには出発前から帰国後までお世話になりっぱなしです。出発準備や送迎をしてくれた親だけでなく、朝の6時にセントレアで見送りをしてくれた学園の先生、一生の思い出をくれたホストファミリー、デトロイトでサポートしてくれた方々、派遣事業をサポートしてくれている豊田市の方々。自分が会えた人だけでなく、会えていない人にも沢山のサポートして貰っています。返しきれないくらいの感謝の気持ちを、別の誰かに渡していかないといけないと思っています。

今回の派遣に参加できたことを自信に変えて、これからの毎日に活かしたいと思っています。本当にありがとうございました！

今回のデトロイトの交換学生事業に参加できたことは非常にうれしく、貴重な経験をくださったことに感謝申し上げます。今回の交流に参加した理由は、私は小学生のころ、アメリカに3年間住んでいたものの、当時はまだ幼く、アメリカという国がどういう国なのか自分の中に残っていなかったためです。それを確かめ、理解を深めるために今回の交流に参加しました。

デトロイトでの2週間は、非常に得られるものが多い期間でした。日本とは違った建物、言語、性格・個性、人種、それらが日本より規模の大きいものでした。デトロイトの人たちはすごく親切で、知らない人同士でも挨拶をしたり、「ありがとう」を言う文化があり、少し驚きでした。みんなが互いに、助け合っているという風に見受けられました。

デトロイトに滞在中はたくさんのおところに行きました。その中でも自分は日本国領事館への訪問、アフリカンアメリカン博物館への訪問、デトロイト博物館への訪問、この3つ特に印象的でした。日本領事館では岸守一さんに、海外で働く際に必要なことを質問させていただきました。岸守さんが言うには、日本人と違って謙遜などは通用せず、常に自分から行動することを大切にしていると教えていただきました。アフリカンアメリカン博物館では、デトロイトになぜ黒人が多いのかななどの、歴史を学ぶことができました。デトロイト博物館では、デトロイトの都市の成り立ちや Ford についての説明を受けました。こういった歴史や日本とは異なった文化を学び、過去を踏まえて、デトロイトがあるということ、深く理解しました。自分もこうした学びから、文化や歴史への理解とリスペクトが必要だと改めて認識しました。

他にも日本とは違う点がありました。アメリカ人は街中で会う人たちに挨拶したり、どの年代の人に対しても分け隔てなく接することが多く、何より優しい人が多いと感じました。初日にホテルで困っておどおどしていると、「大丈夫ですか？」と声をかけてくれ、自分から行動することが日本よりも多いのだと実感しました。ただし、遅刻が当たり前の文化もあり、時間に厳しい日本とは異なる点もありました。将来、国際的に活躍したい自分にとって、こうした経験を心に残し、国内でも活かせるようにしていきたいです。

ホストファミリーとは、こうした文化の違いで悩まされることもありました。例えば食事では、自分は雑食なので、アメリカでどんなジャンキーなものが食べられるのかと心を躍らせていました。しかし、私のホストファミリーはベジタリアンで、交流中は肉を食べることができませんでした。日本ではあまり見かけないベジタリアンの存在に気づき、こういう人もいると学びました。また、年の差に関係なく自分の意見をはっきり言う姿勢も、日本ではあまり見られない光景で新鮮でした。それでもホストファミリーは、違いがあっても変わらず優しく接してくれ、悩んだときは一緒に解決方法を考えてくれました。英語でどう表現すればいいかわからなくなったときも支えてくれ、とても温かい人たちばかりでした。自国の文化や習慣の違いを話し合う中で、互いに学ぶことも多く、とても貴重で、心に一生残る素晴らしい経験となりました。

た。今後もホストファミリーとは連絡を取り続け、つながりを大切にしていきたいと思います。

そして、今回の交流に参加してくれたみんなへ。僕は、みんなと一緒にデトロイトに行けて本当にうれしかったです。困ったときはお互いに助け合い、一緒に笑い、一緒に学び、このメンバーで行けて本当に良かったと心から思えました。改めて、ありがとう。

リーダーの近藤さんへ。どの生徒にも気を配り、困ったことがあれば一緒に考えてくれて、さまざまなことを教えてくれました。しっかりとしたリーダーシップがあり、尊敬できる素晴らしい方だと思いました。一緒に行けたことに感謝しています。

最後に、副リーダーの木下さんへ。木下さんは副リーダーでありながら、常に最前線で私たちをサポートしてくれました。ユーモアがあり、たくさん話しかけてくれて、とても楽しく過ごせました。一緒に行けたことに感謝しています。

今回のデトロイトへの派遣を通して、異なる言語、食事、価値観に触れ、個性豊かな仲間や多くの人々と関わることで、自分の視野や姿勢は出発前とは全く違ったものになりました。今回の貴重な体験を胸に、今の自分を存分に発揮しながら、これからの人生を生きていきたいと思います。

## 日常生活で見つけた文化の違い

宇治野 絢香

アメリカを訪れるのは二回目でしたが、前回から10年ぶりだったため、「また自分の目でアメリカの街を見られる」と、行く前からわくわくしていました。親や友達など、いつも身近にいる人が誰もいない環境に行くことに対して、不思議と不安はなく、新しいことに挑戦する楽しみの方が大きかったです。

実際にデトロイトを訪れ、私はアメリカを存分に味わいました。そして様々なところで文化の違いを感じました。まずは、やはり食事です。日本でよく食べられる和食ではなく、ハンバーガーなどファストフードが圧倒的に多かったです。どこで食べてもおいしくて、夢のような環境でしたが、和食に慣れている私にとって毎日食べるのは少し大変でした。さらに「量」も、日本での大盛がデトロイトでの普通盛りです。派遣中、いろんなお店に行きましたが、全て食べきれたときの方が少ないと思います。しかし、量が多いというのは私たち日本人だけではなくて、現地の人々も同じ気持ちでした。なので、料理を残すということも珍しくはありませんでした。一見、もったいないように感じますが、基本的に、「無理に食べる必要はない」という考えが主流だとホストファミリーに教わりました。その代わりに、日本のお店に比べて余った料理を持ち帰れるお店が多く、「お持ち帰り用の箱をください」というとほとんどのお店でもらうことができましたし、逆に店員さんから「箱はいりますか？」と聞いてくれるところもありました。このように、食べるもの、量、お店の対応などで違いを感じました。

次に、人との接し方です。今回の派遣でホストファミリーだけでなく、博物館のガイドさんや、レストランやお店の店員さんなど、本当にたくさんの人と接しました。

その中で特に違うと感じたのはレストランやショップの店員さんの接し方です。日本では、ものすごく丁寧に接するスタイルで完全に店員とお客さんという関係ですが、デトロイトでは、最初のあいさつに How's it going? といっていたり、お客さんとジョークを言い合っていたりと、まるで知り合いのように接していました。さらに食事をしていても、定期的に Is everything ok? と、何か必要なものはないか席に確認しにきてくれることも多くありました。普段店員さんにこんなに気さくに接せられることがないので、最初は返答に戸惑っていましたが、終盤になってくると徐々に慣れて、自然と返せるようになりました。このように日本とは全く違う店員さんの対応を経験できて、嬉しかったし楽しかったです。もうひとつ私が感じた日本との違いは、「ありがとう」と「どういたしまして」です。一番多くあったのは誰かがドアを開けて抑えてくれていたとき、「ありがとう」というところまでは同じですが、デトロイトの方はみな You're welcome. と「どういたしまして」までいっていました。日本では「どういたしまして」という人はほとんどいませんし、会釈だけの人もなかにはいます。そんななか、「ありがとう」と伝えた時に「どういたしまして」と返ってくると、自分もお礼をいってよかったなと嬉しい気持ちになり、やはりちゃんと言葉にして伝えるだけでこんなにも気持ちが違うんだということに気づかされました。人の接し方は国によってもその人の性格によっても違いますが、誰とでも気さくにはなす人のおおいアメリカ人のよさを感じることができました。

最後に時の流れです。この2週間の滞在は、帰ってきた今となっては一瞬だったなと感じますが、行っている間とはとにかく時間の流れがゆっくり感じました。普段の勉強や部活から離れ、忙しい日常を忘れることができたというのもあるかもしれませんが、それ以上にアメリカのゆったりとした自由な雰囲気にも包まれていたからだと思います。日本にいと、みんなそれぞれの仕事や学校など常に忙しく動いていて、どこか気を張り詰めている感じがします。アメリカには不思議とその張り詰めた空気がなく、自然に時の流れに身を任せようと心がとても軽くなりました。食事や人の接しかたのように明確に根拠があるわけではないけれど、これもまたアメリカと日本の文化というか、雰囲気の違いではないかと感じました。

このように、派遣中はとにかく新しいものにたくさん触れ、アクティビティ以外の日常生活からも多くの文化を学ぶことができました。ちょっと何かをするだけでもたくさん違いを見つけ、新しい視点をすることもできました。世界中の文化に興味があり、日本との違いを見つけたい、感じたいと思っていた私にとって今のこの時期に2週間アメリカに行って実際の生活を経験できたということは、ものすごく貴重なことです。そしてこの2週間で学んだことはこれから先もきっと自分にヒントを与えてくれるとても大切なものになると思います。支えてくださった方全員への感謝を忘れずにこれからもデトロイトとのつながりだけでなく、一緒にいった仲間とのつながりも大切にしていきたいです。

高校一年の夏、一生モノの宝物を見つけました。中学の頃から外国に興味があり、いつか留学してみたいと思っていました。高校に上がり生活にも慣れてきたころ、学校に掲示してあった海外派遣生募集の紙を見つけ、先生から説明を聞いたり、前回の派遣生のレポートを読んだりして、「これに行きたい」と強く思いました。応募用紙を書き、面接や集団討論に全力で取り組み、無事合格。ほかの学校の仲間とも交流しながら、英会話やホームステイの準備を進め、出発が近づくにつれワクワクが止まりませんでした。

出発の日、朝早くから起きて重いキャリーバッグを引き、セントレア空港に到着。家族と別れるときは少し不安になりましたが、「思いっきり楽しんで来い」と背中を押してくれる家族の言葉に覚悟を決め、飛行機に乗りました。羽田空港では、少しの間食べられない日本食を食べたり、免税店を巡ったりと、全てにおいて楽しみました。

時間になり、派遣先のデトロイトへ向けて、名前の似ているデルタ航空の飛行機に約12時間乗っていました。アメリカの航空会社だったので、乗務員さんも外国の方が多く、帰国のために乗っている外国の方もいて、飛行機に乗っているだけでもとてもドキドキしました。機内では、席を倒すときや機内食を受け取るときに英語を使う場面があり、隣にいた仲間にも助けをもらいながら、快適に過ごすことができました。寝ては起きることを繰り返しているうちに、アメリカ大陸に入り、あっという間にデトロイト空港に到着。空港に入った瞬間、日本とは違うフローラルな香りを感じ、ワクワクしているのもつかの間、税関の審査が待っていました。英会話の授業で使ったメモを見ながら、自分のステイ先を確認して待ちました。ついに自分たちの番に。先に仲間が「このみんなは僕と同じ理由で来ているよ」と伝えてくれていたおかげで、私の番は「Yes」と答えるだけで済みました。しかし、生の果物を持っているか聞かれたとき、間違えて自分のアレルギーのことを言ってしまいました。それでも審査官の方はわかりやすい英語に変えて質問してくれたり、丁寧に接してくれたり、ちょっとしたジョークを交えながら対応してくれました。緊張でガチガチだった自分にとって、その優しさがとても嬉しかったです。荷物を受け取り終えた後、これから二週間ガイドをしてくださるローズさんのもとへ向かいました。ローズさんは、全員と熱い握手をして迎えてくれました。

最初の日にはホテルに泊まる予定だったので、ローズさんの仲間の方に大きな車で荷物を積んでもらい、私たちは別のバンに乗って向かいました。バンが来るまで、ローズさんの仲間の方や派遣団の何人かとおしゃべりをしていて、私も話に入れてもらいました。話題はデトロイトのピザについて。私は食べるのが好きで、ピザも好きだと伝えると、「一緒だね」とハイタッチしてくれました。最初の現地の市民の方との会話はとても簡単な英語でしたが、私も相手もニコニコ笑顔になれたことで、自分の英語がちゃんと通じることが分かり、安心しました。ホテルに着いて一時間ほど体を休めた後、街に出て夜ご飯を食べに行きました。横断歩道では信号が青にならなかつ

たり、車がないときにダッシュしている人がいたり、一歩外に出るだけで全く違う世界が広がっていました。壮大な建物や景色に感動しました。

アメリカでの初めての食事では、アメリカらしい大きなバーガーを食べました。やはり量が多く、トッピングのようについているポテトもたくさんあり、食べ終わるのに時間がかかって大変でしたが、「アメリカにいる！」と感じられ、とても楽しかったです。ホテルに戻り、寝る準備をしていると仲間が来ました。うれしくなって外に出ると、二人部屋だったにもかかわらず、二人ともカードキーを忘れて扉を閉めてしまい、インキーしてしまいました。英語でなんとか対応し、もう一度部屋に入ることができました。まさかの出来事に焦りましたが、今ではこれもいい思い出です。

二日目はスロースタートで、お昼から昨日と同じバンに乗りデトロイトを回りました。興味深い話ばかりで楽しかったのですが、時差ぼけの影響でだんだんとまぶたが重くなり、めまいを感じることもあり大変でした。それでも、その日の夕方にはホストファミリーとの対面が待っていました。一通りデトロイト市内を回り終えた後、ローズさんのオフィスの一角で休憩し、いよいよホストファミリーと対面する時間になりました。これからはほとんどを英語で伝えなければならないと思うと、緊張と不安で胸がいっぱいになりました。それでも「頑張ろう」と気合を入れ、ホストファミリーに会いました。私のホストファミリーは優しく席へ案内してくれました。席に着くと自己紹介タイムになり、それぞれの名前を聞き、握手を交わしました。夕食はバイキング形式だったので、ホストシスターが先導してくれたり、食べている最中も翻訳機を積極的に使ってくれたおかげで、自分も質問にしっかり答えることができました。何より向こうから翻訳機を使ってくれたことで、自分も使いやすく、心理的な不安も少なくなりました。

次の日からは土日で、ホストファミリーと過ごす日でした。イーストマーケットという市場に連れて行ってくれ、地元のお菓子や食べ物を教えてくれたり、たくさんの英単語も教えてくれたり、とても勉強になりました。ほかにも、ホストファミリーの親族が経営するコーヒー屋さんに行ったり、雑貨屋さんを回ったりと、素敵な時間を過ごすことができました。この期間中、ホストシスターの友人のパーティにも二回ほど参加しました。初対面の私でも快く受け入れてくれ、「あれ食べた？」などたくさん話しかけてくださいました。

平日は、ローズさんの案内でさまざまな施設を見学することができました。デトロイト美術館に行ったとき、多くの作品や展示物に心を奪われている中で、ふと気づいたことがありました。私はまだ豊田市美術館に行ったことがないということです。デトロイト市を見て回る中で、自分がいた豊田市と比べることもありました。しかし、まだ訪れたことのない場所については比べることができず、ただ楽しむだけになってしまうこともありました。それ自体は悪いことではありませんが、さらに学びを深めるには、何かと比べながら見ることの方が発見も多いと感じました。デトロイト市の見学を通して、改めて自分の住む豊田の街にも関心を向け、大切にしていきたいという思いがわき上がりました。

二回目の土日がやってきました。休みということもあり、いつもよりゆっくりと活動することができました。土曜日は家族みんなでモールに行き、翌日はプールに行く予定だったので、みんなで水着を探しに行きました。日本とは比べものにならないほど大きな建物で、買い物スペースだけでなく水族館まであり、「さすがアメリカだな」と感じました。モールを散策している中で、なかなか気に入ったものが見つからず焦ることもありましたが、ホストファミリーは自分の意見をよく聞いてくれ、いつでも楽しむことを最優先に考えてくれていました。それは私ひとりが楽しむことではなく、家族みんなが楽しむことを大切にしている姿勢でした。例えば、子どもたちが雑貨をたくさん見ているときにはおいしいお菓子を買ってきてくれたり、子どもたちが楽しんだ後にはホストファザーやマザーが仲良く買い物を楽しんだり、家族誰一人悲しい思いをしないように、みんなで楽しみながらショッピングしている様子がとても素敵だなと思いました。

日曜日には、ホストシスターの友達も一緒にプールに行きました。初対面でとても緊張していましたが、前回のパーティでよくしてくれた方の様に、できるだけ自分から話しかけるようにしました。これまで受け身だった自分も、ホストファミリーやその友人たちのように、自分から話そうと意識できるようになりました。そのおかげで、プールの時間も楽しく過ごすことができました。

最後に、ホストファミリーと一緒にナイアガラ滝に行きました。家族で過ごす最後の思い出を作ることができ、これまで以上にたくさん楽しむことができました。最終日はフェアウェルパーティもあり、これまでの思い出が次々と頭に浮かびました。一緒に歌ったこと、さまざまなことを教えてもらったこと、助けてもらったことなど、涙が出るほど大切な記憶となりました。その思いを手紙に綴り、感謝の気持ちを伝えることもできました。

今回の海外派遣は、たくさんの人の協力によって成り立っているのだと改めて実感しました。飛行機の手配をしてくださった豊田市、施設訪問のために尽力してくださり、食事代なども支援してくださったデトロイト市の職員の皆さん、施設を案内してくださった方々、デトロイトでの生活を助けてくれたホストファミリー、そしていつも支えてくれた派遣団の仲間など。多くの人と関わったことを、とても嬉しく思いました。この経験を通して、私はご縁の大切さを深く学びました。

およそ七日目、初日にピザの話をしてくれた方と再び会うことができました。「ピザ食べたよ」と報告すると、「それはよかった」と反応してくれたり、「ほかには何か食べた？」と話しかけてくれたりしました。ホストシスターの友人の方も、急だったにもかかわらず快く受け入れてくださり、今回の派遣で出会った人たちとのご縁の大切さを改めて感じました。これからは、日本でもこうしたご縁を大切に、さまざまな方と関わっていきたいと思います。

「アメリカ、楽しそうだな」私がこのプログラムに応募した理由はそんな漠然としたものでした。私は、自分の普段の当たり前に繰り返される生活に少しつまらないと思っていました。しかし、そんなときにこのプログラムを学校で知り、聞いた瞬間にこれは行くしかない、自分の人生にとってとても大きなものになるはずだと確信しました。すぐに両親に相談し、応募することを決意した記憶があります。

はじめは楽しそうだけでしたが、このプログラムを調べていくうちに、どんどん海外の人の暮らしや文化に興味が湧いてきました。そして、英語力をあげなければなりません。しかし、現実はそのなにごとなく面接までに必要な英語力は身に付きませんでした。そんな中、面接が始まり、最初は練習通りのことをこたえるだけでしたが、だんだん言葉が詰まってしまう、笑ってごまかすしかありませんでした。そんな不甲斐ない結果で正直自分は合格できていないと思っていました。しかし、一週間後市役所から合格の電話がありました。喜びで携帯を持つ手が震えていました。しかし、喜びと同時に英語をもっと勉強しなければなりません。

そんな中いざアメリカに行ってみると驚くほど何もわかりませんでした。想像していたよりも会話のスピードが速くとても絶望し、すごく日本が恋しくなりました。ですが、そこで落ち込んではいけなるとなんとなく自分の中でそんな気持ちが芽生えました。そして、開き直って言葉が分からなくともどんどん話しかけていこう精神で必死に食らいつきました。そして、ホストファミリーはそんな自分に親切にできるだけわかるように話してくれました。そして、どれだけ上手く伝わらなくてもあきらめず笑顔で話してくれました。そんなホストファミリーのおかげでなんとなく救われた気がしました。本当にホストファミリーには言葉では表しきれないほど感謝しています。

また、ホストファミリーにはたくさんのお世話をしてもらいました。例えば、海や山、ほかにもさまざまなところに連れて行って、アメリカ特有の食事や文化について触れる機会などたくさんの経験をくれました。おかげでたくさんの発見があり、自分にとって刺激を受けるものばかりでした。



また、ホストファミリーのおかげで一つ趣味ができました。それは、チェスです。私のホストファミリーは三兄弟でした。そして、三人ともチェスがとても強く、全員が全国大会に出るほどの実力者でした。そんな三兄弟にチェスを教えてもらいながらやっていくうちに言葉はあまりわかりませんでした。ジェスチャーや簡単な英語を駆使して少しずつルールを理解することができるととても楽しいものだととても感じました。三兄弟に一度も勝つことができませんでしたが、こうやって言葉や文化が違うなかでも楽しく一緒に遊ぶことができるという、ボードゲームの魅力をとても感じました。そしてこれからチェスを極めて、あの三兄弟にリベンジしたいと思います。

そして平日には、博物館、美術館、科学館、デトロイトの様々なところに行き、歴史を肌で感じ、たくさんの学ぶことができました。博物館では、少し目を伏せたくないような繰り返したくない歴史からデトロイトの発展の道、発展していく上で辛かったことたくさんの事実を知りました。これらを見ると今の自分の環境で生活はとても幸せなもので感謝しなければならないと改めて実感しました。そして、それと同時に絶対に繰り返さないようにしなければいけないと強く思いました。また、美術館での絵から伝わる歴史、そして絵に隠された様々な意味を知り、とても興味が湧きました。歴史の伝え方は言葉や文だけでなく絵や物で伝えることができる、むしろその時代により入り込んでその歴史について学ぶことができる。そう感じました。しかし、作者がどのような考えでどんな思いをもって絵画や銅像を作ったかはわかりません。このように伝えるということにはいろいろな方法、形があり、受け取る側にもいろいろな受け取り方があると思います。それは、言葉でも同じではないかと私は考えました。それぞれのその人に合った伝え方、そして言葉の受け取り方は色々だと思います。このように言葉一つにも伝える側の意図、受け取る側の考え、これらなるべく差異なくしていくためにも今の自分たちができることは、相手の目を見て、そしてなるべく誤解されにくい言葉選びをすることが大切なのではないかと感じました。

私はこの二週間のプログラムを通し、たくさんの人のつながり、そして、人の温かみを感じることができました。お世話になったホストファミリー、デトロイト派遣団の9人の仲間、ローズさん、他に様々な友達、ほんとにたくさんのつながりができました。そして、このような経験を得るチャンスをくれた市役所の方、両親、学校の方たちいろいろな協力してくれた人たちには心の底から感謝しています。

最後に私は、この二週間で一つ夢ができました。それは、英語を極めてデトロイトのトヨタ自動車で働くことです。私は、これからトヨタ自動車働きます。そんな中私は日本で働き続けるだけでなく、アメリカなど海外のトヨタにも行き、そこで活躍できるような人材になりたいと思いました。そして、そのためにも今まで以上に興味の湧いた英語の勉強を続け、会話に困ることのないほど英語力を身に付けていきます。そして、今回のプログラムで得た好奇心や人とのつながり、歴史や成長したこと全部を必ず忘れず、人生の糧として生きていきたいと思っています。



今回の派遣プログラムに参加した目的は、異文化を理解することでした。普段の生活の中で外国の人々と深く関わる機会は限られており、実際に現地に滞在し、家庭生活を共にすることを通じてこそ学べることがあると感じていました。そのため、私はデトロイトでの滞在を通じて、言葉や習慣、文化の違いを肌で感じたいと考えていました。



ホストファミリーとの生活は、まさにその思いを実現させてくれるものでした。ホストマザーは毎日の送り迎えをしてくださり、買い物に連れて行ってくれるなど、常に私のことを最優先に考えてくれているのを感じました。小さなことにも気を配ってくださり、その温かさに支えられて安心して生活することができました。ホストファザーはとても優しく、遊園地に連れて行ってくれるなど、一緒に過ごす時間をとても大切にしてくれました。また、ホストシスターのザラはいつも私を気にかけて、部屋に来て「大丈夫？」と声をかけてくれました。そのさりげない気遣いが本当の家族のようで、心からうれしく感じました。さらに、一緒に住んでいなかったもう一人のホストシスター、ジーナも、会うたびに「楽しんでる？」と笑顔で声をかけてくれ、その優しさが印象に残っています。そして、日本に住んでいるホストブラザーとはほぼ毎日電話をしました。日本語も上手で、さまざまなことを教えてくれる存在は、異文化を繋ぐ架け橋のように思えました。

デトロイトでの生活の中で特に感じたのは、人々の温かさです。街で出会う人たちやプログラムを通じて知り合った人々は、皆とてもフレンドリーで、外国から来た私を歓迎してくれていると実感しました。中でも印象的だったのは、6年前に私の家で受け入れた交換留学生と現地で偶然再会したことです。覚えていてくれたことに驚くと同時に、交流が一度きりで終わるのではなく、長い時間を経てもつながり続けることに感動しました。豊田市とデトロイト市の友好の絆を改めて感じ、このプログラムの意義を強く実感しました。

また、忘れられない体験のひとつがナイアガラの滝を訪れたことです。写真や映像で見るとはあっても、実際に目の前に広がる滝の迫力は想像をはるかに超えていました。轟音を立てながら流れ落ちる水の力強さと、自然の壮大さに圧倒され、自分がどれほど小さな存在であるかを実感しました。同時に、その場に一緒にいた仲間と感動を共有できたことも大きな喜びでした。言葉や文化が異なっても、同じ景色を見て同じ感動を分かち合うことで、強い絆が生まれるのだと感じました。



この派遣を通して、私は異文化を理解することの大切さを学びました。言語や習慣

の違いに戸惑うこともありましたが、その一つ一つが学びであり、自分を成長させてくれる機会でした。文化や価値観が異なっても、人と人は理解し合えること、そして心を開いて接すれば必ず通じ合えることを実感しました。

最後に、この貴重な経験を与えてくださった関係者の方々、温かく迎えてくださったホストファミリー、そして共に時間を過ごした仲間



心から感謝します。この派遣で得た学びと出会いは、私の人生にとって大きな財産です。今後もこの経験を忘れず、異文化交流の大切さを多くの人に伝えていきたいと思っています。

## 心を通じ合わせた日々

水野 惟斗

私は中学生の時にイギリスへの海外派遣に参加し、学校生活や授業での考え方などが自分たちと違うことにとても驚きました。言語が充分に通じず、不安な気持ちも大きかったですが、自分たちと似た部分を見つけた時には親近感を感じたり、ホストファミリーやバディが寄り添ってくれたり日本のことに興味を持ってくれたりしたときにはとても嬉しく感じました。この経験から、「もっと多くの国の文化や考え方、価値観の違いや共通点を知り、自分自身の視野を広げたい。そして日本にいる外国人の方にも思いをはせ、尊重したい」「現地の文化を体験し、日本文化を伝え、お互いのことを理解しあいたい」と思い、この派遣に応募しました。

今回の研修スケジュールは土日が多く含まれ、ホストファミリーと一緒に過ごす時間を多く持てること、Farewell Party で日本文化を紹介する機会があることも非常に楽しみでした。

Farewell Party で使う和太鼓の貸出について、和太鼓センターの方とのメールやり取りが最初は途切れ途切れで出発までに間に合うのか不安で諦めかけていましたが、粘り強く返事を待ち、自分からも連絡を取り続け、快く協力してくださるとの返事をいただいたときは本当に嬉しかったです。僕のホストファザーもメールで「和太鼓の受け取りに協力するよ。他にもやりたいことがあればホームステイ中はなんでも、やりたいことをやればいいよ。」と言ってくれて、とてもワクワクしながら日本を出発しました。デトロイト空港に到着すると、市役所のローズさんやブライアンさんなどが笑顔で出迎えてくれました。急な英語でのコミュニケーションに耳がなれませんでした。現地に来たということを実感できました。

それから2週間、アメリカで過ごす中でたくさんの人と関わり、仲を深められたと思います。

まず多くの時間を共に過ごしたホストファミリーは初対面はだいぶ緊張しましたが、積極的に話しかけたことで相手についてよく知ることができ、緊張も和らいでこれからの2週間が楽しみになりました。ホームステイ中はホストファザーが立ててく

れたプランの他に、僕がやりたいことにも寄り添ってくれました。事前研修を進めていく中で、デトロイトについてよく知ることができ、デトロイトで人気の Coney dog を食べたり、歴史ある音楽に触れたりして、現地の文化に親しみたいと思っていたことを相談すると2つの Coney dog のお店で食べ比べをしようと張り切って連れて行ってくれました。食べてみると日本のホットドックとは大きく異なり意外に思ったけれど、特有の甘辛いソースがかかっているととても美味しかったです。ホストファミリーとどちらの Coney dog が好きか話し合うことも楽しかったです。また、MOTOWN MUSIUM という野外コンサートをやっている場所にも連れて行ってもらいました。ちょうどホストファミリーが好きなアーティストが演奏していたのでじっくり見ることにしました。会場が一丸となって手拍子をしたり声をあげたりして、楽しさが倍増しました。

他にも映画館やビーチ、ショッピングセンター連れて行ってくれたり、家でキャッチボールをしたり、筆ペンで好きな文字を書いてあげたりして過ごしました。ビーチに行った時にはバランスが取れず、ボートにうまく乗れない僕やアイスを食べすぎて凍える僕をみて、優しく見守ってくれるなど、和気あいあいとした雰囲気が最高のホームステイ生活でした。

ホストファミリーの他にも多くの人と関わりました。まず、ローズさんは、ホストファミリーや和太鼓センターの方と連絡を積極的に取り合ってくれてサポートをしてくださいました。認識が僕とずれたりして意思疎通がうまくいかないこともありましたが、会話する機会が増えるにつれて徐々に上手く意思疎通ができるようになり、会話も弾むようになりました。

また、Farewell Party では使用する PowerPoint の準備や操作、音響などを、ローズさんの同僚のタイラーさんが手伝ってくれました。上手く機器が動かずに困り、サポートをお願いするときに、上手く表現できずに困りましたが、自分のできる表現を駆使して一生懸命伝えました。その結果、何とか機器も動かさず、パーティも無事に終わり、「うまくいったね」とグータッチをして喜びを分かち合いました。

他の派遣メンバーのホストファミリーとは、ウェルカムパーティーやナイアガラ滝などで一緒に行動しました。一緒に写真と撮ったり、同じデザートを食べたり、バスの待ち時間に会話したりして、関わる時間が限られているのでたくさん話しかけ、仲良くなれたと思います。また Farewell Party で僕が和太鼓の演奏をした時には、これまで話したことがない人も「よかったよ」と声をか



けてくれて、とても嬉しかったです。

これらのように今回の派遣ではたくさんの人と会話をし、心を通じ合えた経験は僕の中でかけがえのない宝物になりました。今回デトロイトの方々に親切にいただきありがとうございましたし、現地のことをよく知れたことでデトロイトが行く前よりも大好きになりました。僕たちが伝えた日本の文化から日本や豊田のことも好きになってもらえていたら良いなと思います。今後、デトロイトの人はもちろん海外の人が日本に来た時には同じように接したいです。

ホストファミリー、デトロイト市のローズさん、豊田市役所の方々、リーダーの近藤さんや副リーダーの木下さん、派遣団のメンバーなど多くの方々のおかげでアメリカでよりよい日々を送ることができました。ありがとうございました！

## 一生物の経験

吉田 遥香

今回、豊田市の海外派遣プログラムを通してアメリカ・デトロイト近郊に二週間滞在し、ホームステイを経験する機会をいただきました。派遣を終えた今、振り返ると学んだことや感じたことは数えきれないほどあり、この経験が自分の人生にとって大きな財産になったと実感しています。ここでは、自分自身の成長や気づき、仲間との協力、そして周囲の方々への感謝についてまとめたいと思います。

出発前の私は、英語力にあまり自信がなく、現地でうまく意思疎通ができるかという不安でいっぱいでした。同時に、異文化の中で自分がどのように受け入れられるのか、相手を理解できるのかという期待と緊張もありました。しかし、実際に現地の空港に降り立ち、ホストファミリーに迎えられた瞬間、その不安は少しずつ解けていきました。初めて会うにもかかわらず、彼らは笑顔で温かく迎えてくれ、「あなたはもう家族だよ」と言ってくれたことは、今でも強く心に残っています。

ホームステイ中は、日常生活そのものが学びの連続でした。食事の習慣や家族の団らんの時間、休日の過ごし方など、日本で当たり前になっていたことが、アメリカでは少しずつ違っていました。例えば、リビングで過ごす時間が長く、家族一人ひとりが自然体で互いに関わり合っている様子は、日本と比べてとても積極的で、最初は驚くことも多かったです。しかし、自分も勇気を出して発言してみると、たとえ文法が間違っていたとしても真剣に耳を傾けてくれることに気づき、安心して会話を楽しめるようになりました。失敗を恐れずに自分の考えを伝えることが大切なのだと、身をもって学びました。

この経験を通して、自分自身の成長を強く感じます。特に、積極性や自立心が大きく育ったと思います。渡航前の私は、周りの様子をうかがって行動することが多く、失敗を恐れて自分から話しかけることをためらいがちでした。しかし現地では、待っているだけでは何も始まらず、自分から声をかけなければ関係が広がらない場面がたくさんありました。その中で勇気を出して一步を踏み出すことを繰り返すうちに、人と関わることへの恐怖心が少しずつなくなり、自分の思いを伝える力が育ったと感じます。

派遣を通して新たに気づいたことも数多くあります。まず、文化や生活習慣の違いに触れることで、自分が普段「当たり前」だと思っていることが、必ずしも普遍的ではないということです。アメリカでは、家族が互いに自然体で過ごしながらか交流しており、個人の考えが尊重される雰囲気がありました。日本のように全体の調和を大切にする価値観も良いものですが、異なる考え方に会ったことで、自分の視野が一気に広がりました。また、多様性を受け入れる姿勢や、違いを楽しむ心の余裕が必要だということに気づきました。

さらに、この派遣では仲間との協力の大切さを実感しました。プログラムの活動や地域の方々との交流の場では、同じ派遣団の仲間と一緒に行動することが多くありました。言葉に詰まったときに助けをもらったり、逆に仲間が困っているときにサポートしたりする中で、互いに支え合う関係が自然に生まれました。誰か一人では成し遂げられないことも、仲間と力を合わせることで乗り越えられるのだと強く感じました。帰国後もこの絆は続いており、同じ経験を共有した仲間の存在は、自分にとって大きな心の支えになっています。

そして、派遣を通して改めて「周りの人の大切さ・ありがたさ」に気づきました。ホストファミリーはもちろん、現地の先生方や地域の方々を温かく受け入れてくださったからこそ、安心して挑戦することができました。また、日本で出発まで支えてくださった市の関係者の方々の存在も、離れてみて初めてその大きさに気づきました。普段の生活では当たり前になってしまうことも多いですが、誰かの支えがあって初めて自分が学び挑戦できているのだと実感しました。



一方で、課題も多く見つかりました。英語力に関しては、聞き取れる場面が増えた一方で、細かいニュアンスや速い会話にはついていけないことがありました。また、自分の意見を英語で十分に説明できないもどかしさも何度も味わいました。この課題は、帰国後の勉強のモチベーションにつながっています。今後は単なる受験勉強としての英語ではなく、「相手に自分を伝えるための道具」としての英語を磨いていきたいと思います。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった豊田市、現地で温かく迎えてくださったホストファミリー、そして支えてくださった全ての方々に心から感謝します。派遣を終えて、日本での日常生活に戻った今でも、アメリカでの体験が自分の中に生き続けていることを実感しています。この経験を通じて育んだ積極性や柔軟な考え方、仲間との絆や周囲への感謝の気持ちを大切にしながら、これからの学校生活や将来に活かしていきたいと思います。



## **英語での感想文**

**Reflections written by each student in English.**

## **Learning to Communicate Without Relying on Words**

**石堂 優太朗**

During my stay in Detroit as a representative of Toyota City, I had the chance to live with a host family and experience American life. What surprised me the most was how relaxed mealtimes were. One morning, we had just pizza and cereal for breakfast! It was so different from Japan, and I really felt the culture through food. After dinner, we would sit in the living room and talk. I was so happy when my host family included me in those moments. At first, I was nervous about speaking English, but as we used gestures and smiled a lot, I realized that communication is more about the heart than perfect words.

This experience became one of the most special memories in my life. I'm truly thankful to my host family, and I hope to use what I learned to connect with others in the future.

## **Through Detroit**

**今泉 翔太**

I've experienced many things in these 2 weeks. I was not good at speaking English. So, I was eager to speak with my host families to improve my English skills. My host families helped me every time when I was confusing with English, and I have become aware is that people in Detroit are very kind and nice. In Detroit, people help each other, and I thought that is great thing about Detroit. Through this trip I could experience many good things about Detroit, and I have to bring this good culture to Japan.

## **Time in Detroit**

**宇治野 絢香**

This wasn't first time visiting Detroit, however, it has been a long time since I've been there so I was very excited to visit and see the town of Detroit by myself. I felt very comfortable while staying for two weeks in Detroit. Time moved very slowly and I enjoyed many activities and culture there. I could focus on communicating with many people that I forgot about busy life in Japan. Among many things, the time I spent with my host family was the most impressive thing. They taught me many things about Detroit, and we talked a lot about each other. It was just two week, but we were like a real family. It's a very important memory for me in my whole life.

Now I have a connection in Detroit, also I have a family there too. I really want to say thank you so much to everyone who involved and supported us. And I would like to apply what I have learned to the future.

**Thank you. See you again.****柏本 穂美**

I made precious memories this summer. I had a wonderful time staying with a lovely host family, eating delicious food, and visiting various places to see beautiful exhibitions. I was also very nervous about being in America for the first time. But I had a great experience by interacting with many people and receiving their help.

This program gave me a dream: to return to America someday and give back. I want to grow into a person who can be thanked by many people, see everyone again, and express my gratitude once more.

**The past two weeks have flown by****坂入 翔真**

I spent two amazing weeks in Detroit. The city was full of history, culture, and kind people. I visited museums, tried American food, and experienced daily life in the U.S. The most unforgettable memory was visiting Niagara Falls. The view was absolutely breathtaking. I took a boat tour close to the falls and got completely soaked, but it was worth it. The sound and power of the water were incredible.

This experience made my trip very special. I'll never forget the beauty of the falls and the fun I had in Detroit.

**Niagara Falls****鈴木 桃佳**

One of the most memorable experiences during my stay was visiting Niagara Falls. I got completely soaked, but it was so much fun and exciting to see the powerful waterfalls up close. Another fun memory was riding go-karts. I was really bad at driving and kept crashing many times, but I still enjoyed it a lot. These moments made my trip unforgettable.

**Many things about American schools that I didn't know****水野 惟斗**

Since my host family has three children, I asked about their schools and studying. My eldest son and second son go to University of Detroit Jesuit High School. The school is separated into middle school and high school. They said that they can change subjects into favorite ones if they have enough points. My host mother took us up to the school and explained it. It has beautiful buildings and huge ground to play American football. I also went to Wayne State University with delegation members. I saw gaming room, gym, and so on. Also, there are many small rooms that have a capacity of about 15. I think school has many facilities that were among the choices of many people through I visit 2 schools.

During my stay in the United States through the city's dispatch program, I had a valuable opportunity to experience a different culture and daily life. I lived with a host family who warmly welcomed me, and I spent a lot of time in the living room, where we shared meals and conversations. During my stay, I noticed that I often had opportunities to talk with my host family's acquaintances and friends, which helped me become more confident in communicating with others. Through these experiences, I learned the importance of understanding cultural differences and observing everyday life carefully.

This program broadened my perspective and motivated me to be more open-minded. I am very grateful to the city program staff and my host family for supporting me and making this unforgettable experience possible.

# 豊田市・デトロイト市姉妹都市交流資料

- 1 姉妹都市名 アメリカ合衆国ミシガン州デトロイト市  
 2 提携年月日 昭和35年(1960年)9月21日  
 3 提携目的 両市の友好親善と相互理解の増進ならびに市民の国際感覚を育み、世界に通用する人づくりを目指す。

## 4 学生交換事業

	回	年	学 生		リーダー	サブリーダー	計
			男	女			
受入	1	昭和40年(1965年)	1	3			4
	2	昭和43年(1968年)	2	2			4
	3	昭和47年(1972年)	2	2			4
	4	昭和49年(1974年)	1	3	1		5
	5	昭和52年(1977年)		4			4
	6	昭和53年(1978年)	2	3	1		6
	7	昭和55年(1980年)	2	4	1		7
	8	昭和57年(1982年)	3	1	1	1	6
	9	昭和59年(1984年)	1	3	1	2(市職員1)	7
	10	昭和61年(1986年)	3	3	1	1(市職員1)	8
	11	昭和63年(1988年)	2	2	1	2(市職員1)	7
	12	平成2年(1990年)	4	2	1	1(市職員1)	8
	13	平成4年(1992年)	3	5	1	1	10
	14	平成6年(1994年)	3	5	1	1(市職員1)	10
	15	平成8年(1996年)	4	4	1	1(引率2人とも市職員)	10
	16	平成10年(1998年)	2	6	1	1(市職員1)	10
	17	平成12年(2000年)	3	5	1	1(市職員1)	10
	18	平成14年(2002年)	3	5	1	1	10
	19	平成16年(2004年)	4	4	1	2(市職員1)	11
	20	平成19年(2007年)	5	3	1	2	11
	21	平成23年(2011年)	0	3	1	1(市職員1)	5
	22	平成25年(2013年)	2	6	1	1	10
	23	平成27年(2015年)	2	6	1	1	10
	24	平成29年(2017年)	2	4	1	1	8
	25	平成31年(2019年)	4	4	1	1(市職員1)	10
	26	令和6年(2024年)	2	5	1	1(市職員1)	9
			計	159		22	23

	回	年	学 生		リーダー	サブリーダー	計
			男	女			
派遣	1	昭和 41 年 (1966 年)	2	2	1		5
	2	昭和 43 年 (1968 年)	2	2	1		5
	3	昭和 46 年 (1971 年)	2	2	1		5
	4	昭和 48 年 (1973 年)	2	3	1		6
	5	昭和 50 年 (1975 年)	2	2	1		5
	6	昭和 52 年 (1977 年)	2	2	1	1 (市職員 1)	6
	7	昭和 54 年 (1979 年)	2	2	1	1 (市職員 1)	6
	8	昭和 56 年 (1981 年)	1	3	1	1 (市職員 1)	6
	9	昭和 58 年 (1983 年)	1	4	1	1 (市職員 1)	7
	1 0	昭和 60 年 (1985 年)	1	4	1	1 (市職員 1)	7
	1 1	昭和 62 年 (1987 年)	1	4	1	1 (市職員 1)	7
	1 2	平成 元年 (1989 年)	2	4	1	1 (市職員 1)	8
	1 3	平成 3 年 (1991 年)	2	6	1	1 (市職員 1)	10
	1 4	平成 5 年 (1993 年)	2	6	1	1 (市職員 1)	10
	1 5	平成 7 年 (1995 年)	2	6	1	1 (市職員 1)	10
	1 6	平成 9 年 (1997 年)	2	6	1	1 (市職員 1)	10
	1 7	平成 11 年 (1999 年)	2	6	1	1 (市職員 1)	10
	1 8	平成 13 年 (2001 年)	2	6	1	1 (市職員 1)	10
	1 9	平成 15 年 (2003 年)	3	5	1	1 (市職員 1)	10
	2 0	平成 18 年 (2006 年)	3	5	1	1 (市職員 1)	10
	2 1	平成 22 年 (2010 年)	3	5	1	1 (市職員 1)	10
	2 2	平成 24 年 (2012 年)	1	7	1	1 (市職員 1)	10
	2 3	平成 26 年 (2014 年)	4	4	1	1 (市職員 1)	10
	2 4	平成 28 年 (2016 年)	2	6	1	1 (市職員 1)	10
	2 5	平成 30 年 (2018 年)	4	4	1	1 (市職員 1)	10
	-	令和 2 年 (2020 年)	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止				-
	-	令和 3 年 (2021 年)	5	7	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンライン交流を実施		12
	-	令和 4 年 (2022 年)	12		新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンライン交流を実施		12
2 6	令和 5 年 (2023 年)	3	5	1	1 (TIA 職員)	10	
2 7	令和 7 年 (2025 年)	4	4	1	1 (市職員 1)	10	
	計	198		27	22	247	

※オンライン交流は派遣として計上しています。

## 5 訪問団の交流

	年	内 容
デ市→豊田市	昭和 42 年 (1967 年)	キャバナー デトロイト市長来豊
豊田市→デ市	昭和 44 年 (1969 年)	佐藤保市長ほか 19 名訪デ
デ市→豊田市	昭和 46 年 (1971 年)	市制 20 周年・姉妹都市提携 10 周年を記念してデトロイト市長夫人ほか来豊
豊田市→デ市	昭和 51 年 (1976 年)	柴田助役ほか 11 名訪デ (国際姉妹都市会議出席)
豊田市→デ市	昭和 53 年 (1978 年)	西山孝市長ほか訪デ (国際姉妹都市会議出席)
デ市→豊田市	昭和 56 年 (1981 年)	市制 30 周年・姉妹都市提携 20 周年を記念しデ市親善使節団 (9 名) 来豊
豊田市→デ市	昭和 57 年 (1982 年)	山孝市長ほか訪デ
豊田市→デ市	昭和 58 年 (1983 年)	加藤助役ほか 2 名訪デ (国際姉妹都市会議出席)
デ市→豊田市	昭和 58 年 (1983 年)	コールマン・A・ヤング デトロイト市長来豊
豊田市→デ市	昭和 59 年 (1984 年)	豊田市議会北米視察団訪デ
豊田市→デ市	昭和 60 年 (1985 年)	姉妹都市提携 25 周年を記念して、西山孝市長及び豊田市議会北米視察団訪デ
豊田市→デ市	昭和 61 年 (1986 年)	豊田市議会北米視察団訪デ
豊田市→デ市	昭和 63 年 (1988 年)	加藤正一市長ほか 2 名訪デ
デ市→豊田市	平成 2 年 (1990 年)	市制 40 周年・姉妹都市提携 30 周年を記念しデ市親善使節団 (45 名) 来豊
豊田市→デ市	平成 5 年 (1993 年)	豊田市議会北米視察団訪デ
豊田市→デ市	平成 6 年 (1994 年)	加藤正一市長ほか 4 名訪デ (デトロイト美術館との友好交流宣言調印)
豊田市→デ市	平成 7 年 (1995 年)	デトロイト探検隊がインターシティフォーラムの事前調査、市長、総領事への講演依頼のための訪問
デ市→豊田市	平成 7 年 (1995 年)	豊田市美術館オープニング、デトロイト展のオープニング、第 5 回インターシティフォーラム「もうひとつのデトロイト」開催にあたり、デ市親善使節団 (35 名) 来豊
豊田市→デ市	平成 8 年 (1996 年)	豊田市女性国際交流海外派遣団 (10 名) 訪デ
豊田市→デ市	平成 10 年 (1998 年)	デトロイト市桜祭りへ参加のため鈴木助役及び豊田市ジュニアマーチングバンド (101 名) 訪デ
デ市→豊田市	平成 10 年 (1998 年)	デトロイト・シンフォニーオーケストラホールと豊田市コンサートホールが友好提携、デトロイトシンフォニーオーケストラが初来日、初公演。アーチャー市長夫妻ら約 150 人が来豊
豊田市→デ市	平成 19 年 (2007 年)	鈴木公平市長ほか 2 名訪デ (姉妹都市 50 周年記念事業の打合せ)

豊田市→デ市	平成 26 年 (2014 年)	太田稔彦市長ほか 4 名訪デ(姉妹都市 55 周年記念事業の打合せ)
デ市→豊田市	平成 27 年 (2016 年)	マイク・ダガン市長ら一行 (15 名) が姉妹都市 55 周年記念事業へ参加のため来豊
豊田市→デ市	平成 27 年 (2016 年)	豊田市ジュニアオーケストラ親善使節団 (23 名) 訪デ
豊田市→デ市	令和 7 年 (2025 年)	太田稔彦市長および北川市議会市議長が姉妹都市 65 周年記念事業へ参加のため訪デ

## 6 動物・植物・モノの交換

	年	内 容
デ市→豊田市	昭和 54 年 (1979 年)	豊田市長訪デの際 (1978 年)、デ市長より贈呈されたシベリア・タイガー「オマー」が豊田市到着
豊田市→デ市	昭和 57 年 (1982 年)	都市提携 20 周年記念として桜の苗木 1,000 本を贈呈
デ市→豊田市	昭和 58 年 (1983 年)	1982 年豊田市長訪デの際、デ市長よりミナミ・カナダヅル一つがい贈呈される
豊田市→デ市	昭和 59 年 (1984 年)	二ホンザル 10 頭をデ市に贈呈
豊田市→デ市	昭和 60 年 (1985 年)	都市提携 25 周年記念として石灯籠一基をデ市に贈呈
デ市→豊田市	昭和 60 年 (1985 年)	豊田市長訪デの際、デ市長より「ガゼルの像」が贈呈される
豊田市→デ市	平成 2 年 (1990 年)	都市提携 30 周年として、デ市に寄付金 1,000 万円と桜の苗木 100 本を贈呈
デ市→豊田市	平成 2 年 (1990 年)	デ市より「ドッジメモリアル噴水と塔門のモデル」が贈呈される
豊田市→デ市	平成 5 年 (1993 年)	豊田市議会北米視察団訪デの際、桜の苗木 50 本を贈呈

# *Golden Days Abroad in Detroit*

～ 姉妹都市デトロイトを訪ねて ～ 2025

## 第27回デトロイト市派遣学生帰国報告書

●編集・発行 豊田市 多様性社会共創課

〒471-0034 豊田市小坂本町 1-25 TEL : 0565-34-6963

e-mail : kokusai@city.toyota.aichi.jp